

か と う だ
方 保 田 遺 跡

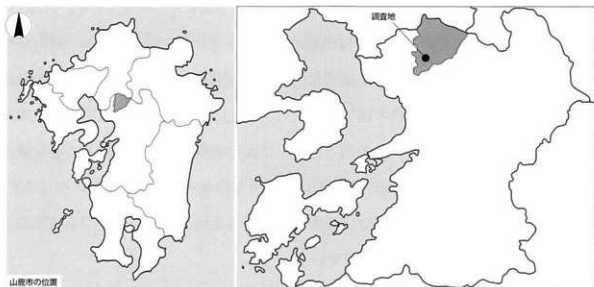
水道事業による方保田配水池整備事業に伴う
方保田遺跡発掘調査(第1次調査)報告書

2014年

熊本県山鹿市教育委員会

かとうだ 方保田遺跡

水道事業による方保田配水池整備事業に伴う
方保田遺跡発掘調査(第1次調査)報告書



2014年

熊本県山鹿市教育委員会

序 文

山鹿市は旧石器・縄文時代から活発な人類活動が展開され、市内各所に多様な文化財が残されています。本格的な発展は弥生時代の中九州を代表する大集落遺跡の方保田東原遺跡にはじまり、チブサン古墳に代表される日本有数の装飾古墳群、朝廷が築造した古代山城の鞠智城跡、近世幕開けの契機となった肥後国衆一揆の舞台である中世山城群、近世から近代にかけて物資集積地として発達した豊前街道の町並みや芝居小屋八千代座などがあげられます。山鹿市ではこれらの文化遺産とあわせて、大地に埋もれた歴史の証拠である埋蔵文化財についても保護と活用に取り組んでいます。

ここに報告する方保田遺跡の発掘調査は、水道事業に伴い平成 24 年から 25 年にかけて実施したものです。方保田遺跡は開田事業に伴い昭和 43 年に遺物が採集されておりますが、今回が本格的な最初の発掘調査です。限られた面積の発掘調査でしたが、多くの遺構・遺物が出土し、当地区の歴史を知る上で貴重な成果を得ることができました。この報告書が、市民の埋蔵文化財保護に対する認識と理解を深め、さらには学術研究の進展に少しでも寄与するならば幸甚に存じます。

埋蔵文化財保護に理解を頂き、多大なるご協力を賜りました山鹿市水道局および関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月 31 日

山鹿市教育委員会

教育長 堀田 浩一郎

例 言

1. 本書は、下記についての埋蔵文化財発掘調査報告書である。

(1) 遺跡名 方保田（かとうだ）遺跡（熊本県遺跡番号 43-208-167）

(2) 調査地 熊本県山鹿市方保田 2839 番、2390 番 1

(3) 調査原因 水道事業による方保田配水池整備事業

(4) 調査期間 平成 24 年 5 月 21 日～平成 24 年 8 月 17 日

整理調査 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月、出土文化財管理センターにて

2 本書で用いた標高は T.P.（東京湾平均海面高度）である。方位は日本測地系に基づく。

3 本書の土層や胎土の色調については、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本式再現研究所色票監修）2002 年版による。

4 本書に掲載した地図は「山鹿市都市計画図 1：2,500」平成 14 年の一部を調整したものである。

5 本書に掲載した遺構実測図は 1/50、遺物実測図は 1/4 を基本としているが、これ以外の縮尺もある。各実測図にはスケールを付した。

6 出土した赤色顔料付着遺物の顔料種類については、肉眼判断による。今後の理化学的な測定で結果が変更される可能性がある。

7 本書の執筆編集は宮崎が行なった。

8 調査で出土した遺物および作成した図面・写真等は、すべて山鹿市教育委員会が所管する山鹿市出土文化財管理センターにおいて保管している（〒 861-0382 熊本県山鹿市方保田 128 番地・電話 0968-46-5512）。

本文目次

序文 例言 目次

第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯	1
第2節 位置と環境	2
第3節 調査の方法	4
①調査の体制	4
(1) 平成24年度	
(2) 平成25年度	
(3) 作業員	
②調査の方法	4
第4節 法令等の手続き	5
第5節 調査の経過(調査日誌抄録)	5

第2章 調査の成果

第1節 調査区の位置	6
第2節 順序	6
第3節 遺構と遺物	7
①1トレンチ	7
(1) 住居 SH-18	7
(2) 住居 SH-73	7
(3) 住居 SH-100	10
(4) 建物 SB-128	10
(5) 溝 SD	10
(6) 溝 SD-70	10
(7) 土坑 SK-3	13
(8) 土坑 SK-4	13
(9) 土坑 SK-12	13
(10) 土坑 SK-16	13
(11) 土坑 SK-17	14
(12) 土坑 SK-19	14
(13) 土坑 SK-21	14
(14) 土坑 SK-23	14
(15) 土坑 SK-39	17
(16) 土坑 SK-61	17
(17) 土坑 SK-62	20
(18) 土坑 SK-65	20
(19) 土坑 SK-82	20
(20) 土坑 SK-93	20
(21) 土坑 SK-107	22
(22) 土坑 SK-113	22
(23) 柱穴 PTT-5	22
(24) 柱穴 PTT-66/67	22
(25) 柱穴 PIT-87	22
(26) 柱穴 PIT-88	22
(27) 柱穴 PIT-102/103	22
②2トレンチ	23
(1) 住居 SH-10	24
(2) 住居 SH-17	24
(3) 建物 SB-104	25
(4) 溝 SD-7	25
(5) 土坑 SK-4	29
(6) 土坑 SK-18	29
(7) 土坑 SK-70	31
(8) 柱穴 PIT-34/35	31
(9) 柱穴 PIT-62	31

(10) その他の出土遺物	31
第4節 まとめ	31

挿入目次

第1図 周辺の遺跡	1
第2図 調査区の配置	2
第3図 遺構配置図	3
第4図 1トレンチ平面図	6
第5図 1トレンチ遺構番号	7
第6図 1トレンチ SH-18・出土遺物	8
第7図 1トレンチ SH-18 出土遺物	9
第8図 1トレンチ SH-73 ほか	11
第9図 1トレンチ SH-73 出土遺物	12
第10図 1トレンチ SH-73・SH-100 出土遺物	13
第11図 1トレンチ SB-128・出土遺物	14
第12図 1トレンチ SD-1 ほか	15
第13図 1トレンチ SD-1 出土遺物	16
第14図 1トレンチ SK-21 ほか	17
第15図 1トレンチ SK-21 出土遺物	18
第16図 1トレンチ SK-21 ほか出土遺物	19
第17図 1トレンチ SK-107・出土遺物	20
第18図 1トレンチ PTT・検出中出土遺物	21
第19図 2トレンチ平面図	23
第20図 2トレンチ遺構番号	24
第21図 2トレンチ SH-10・出土遺物	24
第22図 2トレンチ SH-17・出土遺物	25
第23図 2トレンチ SB-104・土坑出土遺物	26
第24図 2トレンチ SD-7	27
第25図 2トレンチ SD-7 出土遺物	28
第26図 2トレンチ PIT 出土遺物	29
第27図 2トレンチ検出中出土遺物	30
第28図 方保田遺跡出土遺物(昭和43年)	32

表目次

1 試掘調査の調査区	2
2 出土遺物の重量	4
3 1トレンチ 土器観察表	51
4 2トレンチ 土器観察表	61
5 1トレンチ石器・鉄器・土製品観察表	67
6 2トレンチ石器・鉄器・土製品観察表	67

写真目次

1 既存の配水タンク	3
2 粉砕機	7
3 体験発掘	22
4 埋め戻し後(北から撮影)	22
5 2トレンチ作業中	24

図 版 目 次

図版 1 調査区遠景

- 1 南から
- 2 北西から

図版 2 1 トレンチ完掘状況

- 1 1 トレンチ全景 南西から
- 2 SH-73 南から

図版 3 1 トレンチ SD-1・SK-107

- 1 SD-1 南東から
- 2 SK-107 南西から

図版 4 2 トレンチ完掘状況

- 1 全景 南から
- 2 SD-7 北東から

図版 5 1 トレンチ SH-18・SH-73

- 1 SH-18 東から
- 2 SH-18 北西から
- 3 SH-73 北西から

図版 6 1 トレンチ SH-73・SK-107

- 1 SH-73 ベッド状遺構 南西から
- 2 PIT-123 (SH-73 内) 南東から
- 3 土壇 SK-124 (SH-73 内) 北西から
- 4 PIT-102/103 切り合い (SH-73 内) 南西から
- 5 SK-107 北西から
- 6 SK-107 南東から
- 7 SK-107 白砂層 (ベンガラ泥) 南東から
- 8 調査区西壁断面 北東から

図版 7 1 トレンチ SB-128

- 1 柱穴配置状況 南東から
- 2 PIT-37 断面 北から
- 3 PIT-37 北から
- 4 PIT-110 東から
- 5 PIT-112 南西から

図版 8 1 トレンチ SD-1

- 1 北西から
- 2 北壁断面 南から
- 3 南壁断面 北から
- 4 中央 / 南区間断面南壁 南から
- 5 SD-70 断面 南西から

図版 9 1 トレンチ土壇

- 1 SK-16 南東から
- 2 SK-21 土器出土状況 南から
- 3 SK-23 南東から
- 4 SK-23・SD-1 断面 北西から
- 5 SK-61 南東から
- 6 SK-61 完掘 南東
- 7 SK-65 (焼土) 南東から
- 8 SK-93 南から

図版 10 2 トレンチ SH-10

- 1 西から
- 2 南西から
- 3 焼土断面 北西から
- 4 焼土上面の土製勾玉出土状況 南西から

図版 11 2 トレンチ SH-17

- 1 北から
- 2 東から
- 3 焼土 西から
- 4 焼土 南東から

図版 12 2 トレンチ SD-7

- 1 南から
- 2 南西から
- 3 断面北壁 北東から
- 4 調査区北壁 西から
- 5 調査区西壁 南東から

図版 13 2 トレンチ SD-7・SK・PIT

- 1 SD-7 掘削状況 北東から
- 2 SD-7 遺物出土状況 南西から
- 3 SK-4 西から
- 4 SK-18 東から
- 5 SK-70 南から
- 6 SK-70 南東から
- 7 PIT-34/35 南西から
- 8 PIT-72 北東から

図版 14 1 トレンチ出土遺物

- 1 SH-18(第6図7)
- 2 SH-18(第6図)
- 3 SH-18(第6図)
- 4 SH-73(第8図)
- 5 SH-73(第8図3)
- 6 SH-73(第9図)
- 7 SH-73(第9図)

図版 15 1・2 トレンチ出土遺物

- 1 SK-21(第14図)
- 2 SK-21(第14図)
- 3 SK-21(第14図6)
- 4 SK-21(第14図7)
- 5 SK-107(第16図)
- 6 SD-1(第12図)
- 7 SD-7(第23図5)
- 8 SH-10(第19図4)
- 9 SD-7(第23図14)

図版 16 1・2 トレンチ出土遺物

- 1 土製勾玉
- 2 滑石製模造品
- 3 縄文土器
- 4 鉄製品
- 5 石斧・石鏃

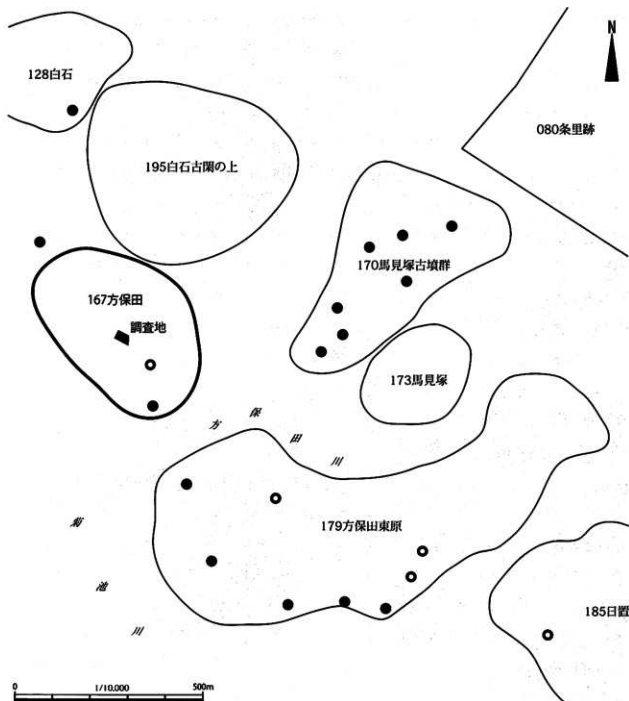
第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯

山鹿市水道事業では、方保田（かとうだ）水源・配水施設において配水エリアの見直し及び未普及地域の解消を行うため、施設の耐震化と更新を図り安心安全な上水道事業を推進することを目的として、

平成25年度に配水池の増設並びに管理棟（ポンプ室）を建設することとなった。

事業に先立ち、担当課である山鹿市水道局水道課から、平成22年11月18日付けで計画地における埋蔵文化財についての照会があった（22年度申請第180号）。地図と照合した結果、埋蔵文化財包蔵地（方保田遺跡）の範囲内であった。計画地周辺では調査歴がなく地下遺構の状況が不明であったため、水道課からの発掘通知提出によって平成23年12月13日に試掘調査を実施した。



第1図 周辺の遺跡

●古墳 ○箱式石棺(現存しないものも含む)数字は遺跡番号

試掘調査は計画地のうち、配水タンク予定地と管理棟予定地に3箇所の調査区を設定し、重機で掘削した。(第2図)その結果、いずれの調査区でも溝や柱穴などの遺構を検出し、弥生時代後期から古墳時代初頭及び古代の土器3袋(1.6kg)、鉄器1点(刀子片、第18図35)が出土した(表1)。

試掘調査によって当該地区に遺構・遺物が分布することが明らかとなった。このため、事業計画の変更によって埋蔵文化財が保護できないか事業者と協議したが実現できず、事業範囲について記録保存の措置を取るため発掘調査を実施することとなった。

調査にあたっては山鹿市を甲、山鹿市教育委員会を乙として調査期間を平成24年度(発掘調査)から25年度(報告書作成)とする実施協定を平成24年5月10日付けで締結した。また、発掘調査ならびに報告書作成業務の委託契約を各年度(24年5月10日付け・25年4月1日付け)で締結した。

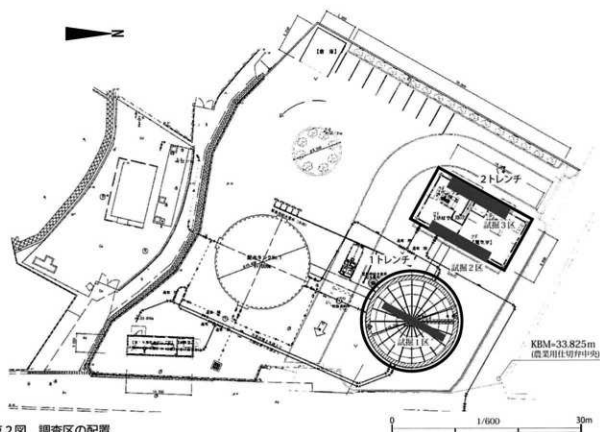
調査区	幅	長さ	遺構面までの深さ
1区	1.2	11.0	0.4
2区	1.8	10.7	0.35
3区	2.0	10.6	0.25

表1 試掘調査の調査区 (単位:m)

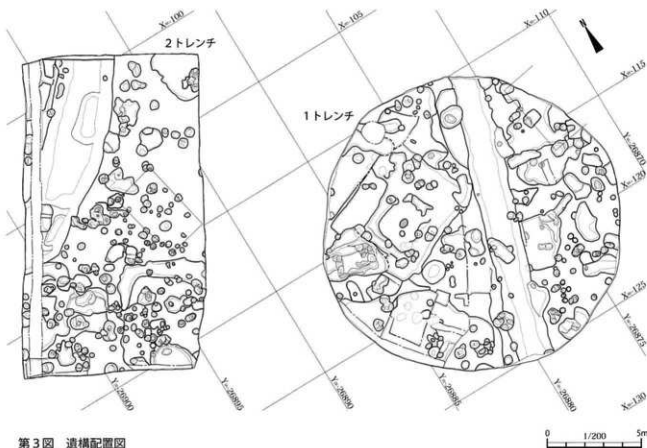
第2節 位置と環境

方保田遺跡は山鹿市南部、菊池川中流域右岸の台地中央部の南端に立地する(第1図・図版1)。遺跡範囲は東西500m、南北350mの範囲と推定されている。この台地は後期更新世の低位段丘で標高30～40m程度、中央を東西に国道325号が通る。台地西端に山鹿市街地があり、東部には鹿本町の市街地(近世における山鹿新町)がある。台地南端では菊池川が西流し、崖面が形成されている部分もある。台地中央付近は主に水田や畑として利用されており、家屋も散在している。調査地の周辺は北から南の菊池川と沖積平野に向けて低くなり、台地上面と沖積平野との比高差は10～15m程度である。

調査地の旧状は畑地でほぼ平坦、地表面の標高は33.0～33.3m付近。北と東は道路、西は畑、南は段丘崖が造成され、宅地(日の出団地)となっている。周辺では昭和43年3月に圃場整備(山鹿市東部方保田地区開田圃場整備事業)に際して、遺物が多量に採集された記録がある(注1)。当時は行政による埋蔵文化財保護体制が整備される前であったため、高校の考古学部生徒らによって遺物採集が行われた。5基の箱式石棺のほか、竪穴住居址らしき遺構も確認されたが記録できずに破壊されてしまっ



第2図 調査区の配置



第3図 遺構配置図

たという。報文では「ブルドーザーとの競争みたいな調査」にも関わらず「ほぼ全域から多量の遺物を検出」して「土器片の数は千点を越すと思われる」ことが記されている。出土品は弥生時代から古墳時代や古代の土器、鉄器などがあつた（第28図）。

方保田遺跡の周辺には同時期の集落遺跡や古墳、箱式石棺が分布する。方保田遺跡の南東、方保田川が開析した小規模な谷をはさみ隣接した位置に方保田東原遺跡があり、60回以上の発掘調査によって弥生時代後期から古墳時代前期にかけてを中心とした多種多様な遺構と遺物が出土している（注2）。方保田遺跡の北に隣接して白石古関の上遺跡と白石遺跡があり、これまで小規模な試掘調査等によって弥生後期から古墳前期及び古代などの遺構・遺物が出土しているが、詳細は判然としない。方保田遺跡東方の丘陵上には7基の円墳からなる馬見塚古墳群があり、盟主墳とされる辻古墳は昭和40年と平成22年に発掘調査が実施された（注3）。昭和40年の調査では家形石棺、舟形石棺、箱式石棺など4基の石棺が出土した。このほか遺跡周辺に分布する箱式石棺は昭和40年代に不時発見されたため、内容について判然としないものが多い（注4）。しかし、同時期に存在したこれらの遺跡や古墳はそれぞれ密

接な関係があるものと思われる。

注1：隈 昭志、杉村彰一『方保田調査概報』『チブサン』第13号、熊本県立熊本高等学校考古学部、1968年

隈 昭志「山鹿市方保田の石棺群と遺物包含層の調査」『菊池川流域の古代文化』熊田出版、2012年に再掲

注2：宮崎 歩『方保田東原遺跡14』山鹿市文化財調査報告書第12集、山鹿市教育委員会、2011年ほか

注3：『山鹿市史』上巻、215-221頁、1985年

佐治健一『馬見塚古墳群 辻古墳』山鹿市文化財調査報告書第14集、山鹿市教育委員会、2012年

注4：中村幸史郎『方保田神社裏古墳』山鹿市文化財調査報告書第5集、山鹿市教育委員会、2007年



写真1 既存の配水タンク

第3節 調査の方法

①調査の体制

(1) 平成24年度

山鹿市教育委員会

教育長 杉本作徳（平成25年3月1日まで）

教育次長 寺崎泰和

文化課長 早田弘隆

審議員 丸山信敏

課長補佐兼文化財係長 園田正尚

文化財係（調査担当）宮崎 歩

山鹿市水道局

水道局長 宮本 稔

水道課長 宮田裕二

課長補佐 阿蘇品 健

(2) 平成25年度

教育長 堀田浩一郎

教育部長 木村厚男

文化課長 丸山信敏

課長補佐 園田正尚

文化係長 鮎本勝徳

文化係 宮崎 歩

山鹿市水道局

水道局長 宮本 稔

水道課長 宮田裕二

課長補佐 中原欣也

業務係長 功能宇治

(3) 作業員

原口洋一、森本正晴、江良敏彦、隈部匡徳、塚本良助、古閑孝昭（現地作業・山鹿市シルバー人材センター）

前川真由美、石橋洋子、高木由起子、松田上司（整理作業・山鹿市出土文化財管理センター）

②調査の方法

対象地の表土掘削は、調査員が包含層の状態を確認しながら重機で掘り下げた。その後作業員によって遺構面を清掃し、遺構を検出して検出状況写真を撮影した。東側の配水タンク予定地を1トレンチ、西側の管理棟（機械室）予定地を2トレンチとした。（第2・3図）

遺構は平板等によって配置図を作成し、種類ごとではなく検出順に番号をつけた。遺構写真は調査員

がカラーリバーサル・モノクロフィルムを使用して撮影した。撮影は35mmフィルムカメラを基本に、補助用としてデジタルカメラ、全体写真用として中型カメラを使用した。専門的な業務は以下のように委託した。

- ・発掘作業（山鹿市シルバー人材センター）
- ・遺構平面実測、遺構実測図デジタルトレース（岡埋蔵文化財サポートシステム熊本支店）
- ・航空写真撮影（九州航空写真熊本営業所）

調査期間中、調査地近くの大道小学校6年生を対象とした発掘調査体験（6月7日開催、50人参加）および市民を対象とした現地説明会（7月28日開催、20人参加）を実施して普及啓発に努めた。

現地調査期間は平成24年5月21日から8月17日であった。

今回の調査で出土した遺物量は内法54×34×15cmのコンテナで76箱、重量332.6kg。遺物量が多いのは両トレンチとも溝であった（表2）。

整理調査は遺物をすべて水洗・乾燥して、取り上げ単位（主にビニール袋）及び出土遺構ごとに番号をつけ、台帳を作成した。遺物は調査員が選別し、遺構の時期を示すものや特徴的なものを中心に注記した後、接合・復元した。注記は遺跡の略記号と調査年を組み合わせた「KTD2012」とし、遺物内面など目立たない部分に記入した。実測は作業員が中心に行い、担当者が確認した。実測図は印刷仕上りの二倍サイズに縮小し、ロットリングペンでトレースした。一部の図面は担当者がデジタルトレースした。遺物写真は担当者が撮影した。整理作業終了後の出土遺物や実測図・写真類は、山鹿市出土文化財管理センターで保管している。

1トレンチ		2トレンチ	
溝 SD-1	62.32	溝 SD-7	37.95
土坑 SK-21	12.27	住居 SH-10	0.82
土坑 SK-107	18.71	住居 SH-17	1.4
住居 SH-18	31.22	その他	37.62
住居 SH-73	32.22	合計	77.79
その他	73.9		
合計	230.64	検出中	24.18
		総合計	332.61

表2 出土遺物の重量（単位：kg）

第4節 法令等の手続き

今回の発掘調査における文化財保護法（以下「法」という。）等の法令に基づく手続きは以下のとおり。

- ①調査の通知（法94条）平成23年11月16日付け山下P1-104号。試掘調査の結果を添付して23年1月4日付け山教文M6-188号で熊本県教育委員会へ進達。24年1月16日付け教文第2431号で県から通知、発掘調査実施の指示。
- ②発掘調査の通知（法99条1）24年5月1日付け山教文M6-25号で県教委に通知、24年5月11日付け教文第323号で県教委から通知。
- ③発見届（遺失物法13条）・保管証（法100条）24年10月3日付け山教文M6-136号で山鹿警察署および県教委に提出。
- ④埋蔵物監査（法102条2）24年10月22日付け教文第152号で県教委から通知。

第5節 調査の経過（調査日誌抄録）

- 5/21（月）曇一時雨／機材搬入、小屋トイレ。9時から16時30分まで重機掘削、0.45級一台。検出開始。1トで包含層（暗灰粘質土（床土）植作物根多くしる）より土器集中。床土の直下が遺構面（暗茶～茶褐色粘質土、しる）。
- 5/22（火）快晴やや風あり／調査区周辺に角杭とロープ設置。1ト検出。南北方向に溝、住居少なくとも2棟。弥生後、古墳、古代の土器が混ざる。遺構面乾燥で見にくい。シートをかける。
- 5/23（水）曇／1ト検出。シート効果で作業が楽。検出写真撮影。
- 5/24（木）曇／遺構掘削。中央溝は古代から中世。不定形の土坑はおおむね浅い。柱穴は深いものがある。
- 5/25（金）雨／降雨のため作業中止。シートを外し水分補給。
- 5/28（月）曇一時快晴／2ト検出ほぼ終了。2ト全体に黒い。SDが落ち込みか。1トレベル。
- 5/29（火）晴れ／2ト検出、撮影、掘削。溝北端にサブトレ。
- 5/30（水）曇／2ト掘削。SD-7北サブトレ完掘。SH-10焼土上面より土製勾玉。
- 5/31（木）曇時々雨／2ト掘削。南平ビツ群。北東SK-10焼土周辺より鉄1片。埋管（塩ビパイプ）φ60、φ76以上。南東SH-17焼土中心に方形プラン。
- 6/1（金）曇／2ト掘削。南平ビツ群深掘。SD-7掘削。
- 6/4（月）曇、強風／2ト、SD-7断面写真撮影。断面実測。
- 6/5（火）雨のち曇／雨のため休み。
- 6/6（水）晴れのち曇／2ト。体験発掘用意（サイン、道具、資料等）。柱穴、土坑の掘削。SD-7東側。SH-10完掘。
- 6/7（木）曇／体験発掘。SD-7上層の黒土を掘削。①9：30～6年1組22人＋引率教諭。②10：30～6年2組23人＋引率教諭。報道（新聞2社、テレビ2社）、記者観。2ト柱穴掘削。SD-7中央中層よりほぼ完形の大甕1点。
- 6/8（金）雨のち曇／雨天のため休み。

- 6/11（月）曇のち雨／2ト掘削SD-7内にSK-70。
- 6/12（火）曇のち雨／雨天のため中止。
- 6/13（水）快晴／2ト掘削PTT-72中央の焼粘土、断面実測。SK-70（SD-7内）断面実測。
- 6/14（木）快晴／2ト掘削完掘。塩ビパイプは排水管。
- 6/15（金）曇のち雨／1ト検出。降雨のため、午前中終了。
- 6/20（水）曇／2ト完掘状況撮影。SD断面実測。
- 6/22（金）快晴／1ト東中層検出、SD-1掘削。5m毎に三分割。
- 6/26（火）曇のち晴れ／2ト排水。1ト掘削。
- 6/28（木）曇一時小雨／1トSD-1、N区とC区ほぼ完掘。白磁合子。ベンガラ付凝灰岩片。SH-17出土状況撮影。
- 6/29（金）曇／1トSH-21周辺にサブトレ①～⑤掘削。
- 7/2（月）曇のち雨／2ト排水。土器洗浄。午後、1ト掘削・SH-18・21、SD-1南東のビツ群。
- 7/3（火）曇のち雨、7/4（水）雨一時曇／降雨のため土器洗浄。
- 7/5（木）曇／2ト排水。1ト掘削SH-18、一段下げて柱穴。SH-21周辺。SD-1完掘。
- 7/6（金）曇のち雨／1ト掘削。雨のため土器洗浄。SK-39、遺構群の上のたまりか。一部掘削。
- 7/9（月）快晴／1ト掘削。SH-18遺物取り上げ。下に遺構なし。
- 7/10（火）晴れのち曇／1ト掘削。検出。
- 7/11（水）曇／1トSK-37、PTTか。PTT-5切り合いあり。
- 7/19（木）曇、午後快晴／2ト排水、肥出し。1ト掘削。
- 7/24（火）快晴／2ト実測。1ト掘削。PTT-5、SK-23。
- 7/25（水）晴れ／1ト掘削。1、2ト実測。
- 7/26（木）快晴／1ト掘削。断面図。PTT-87、SD-1ベルト。
- 7/27（金）快晴（一時雨）／1トSH-73掘削。SK-19ベルト撮影。
- 7/28（土）快晴／現地説明会。20人参加。広報宣伝不足。
- 7/30（月）晴れ一時雨／1ト掘削。SK-93断面実測、完掘。SD-70、SH-62ベルト実測。
- 7/31（火）快晴／2ト掘削。東風強い。
- 8/1（水）快晴のち曇／1トSH-73掘削。E区内のPTT切り合う。S区、うっすらと白粘土。N・W区掘削始める。
- 8/2（木）曇のち晴れ／1トSH-73・SK-21遺物取り上げ。PTT実測。SK-21、浅い。断面実測。
- 8/3（金）晴れ一時曇／1トSH-73・SK-21・SD-1等掘削。
- 8/6（月）晴れのち曇／1トPTT-37・110-112、SK-107白粘土、ベンガラ。SD-1ベルトより滑石製甕蓋。層位不明。
- 8/7（火）晴れのち曇／1ト掘削。撮影前掃除。SK-107から鉄器、刀子か。柄らしき木質も。SK-18・19下層掘削。
- 8/8（水）晴れのち曇／1ト掘削。掃除。
- 8/9（木）曇一時雨／清掃。全景写真撮影後、雨が降り始める。メッシュ設置。SH-73ベルト実測。SD-1南北両端写真。
- 8/10（金）快晴／SH-73ベルト掘削、写真。SD-1南北端実測。2ト断面確認。SD西端実測。トイレ汲み取り、ハウスと共に撤収。機材は文化財管理センターへ搬出。SH-73中央に灰溜まり。
- 8/15（水）晴れ／実測（3名）
- 8/16（木）晴れ／実測（4名）図面チェック。
- 8/17（金）晴れ／機材洗浄、10～17時処理戻し、撤収。

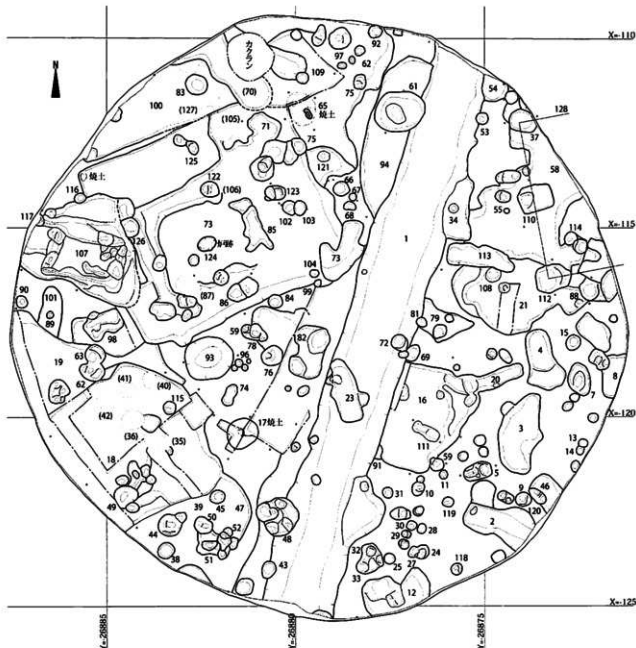
第2章 調査の成果

第1節 調査区の位置

今回の調査地点は遺跡推定範囲の中央付近、台地の南縁辺近くに位置する（第1図）。周辺は昭和43年の圃場整備事業以降、水田や畑として利用されている。調査面積は1トレンチ200㎡、2トレンチ150㎡（合計350㎡）である。

第2節 層序

調査区はかつて畑として利用されていたため、ほぼ平坦であった。地表面の標高は33.0～33.3m付近。層序はどちらの調査区も大差なく、上層から順に耕作土（厚さ0.2m程度）・床土（厚さ0.1～0.2m程度）の下層が遺構検出面であった。かつて圃場整備によって大きく削平されたとのことで、床土に土器が多く含まれる部分があった他に明確な包含層は残存していなかった。遺構検出面は標高32.8～32.9m付近の褐色土（10YR4/4）で、これ以下は



第4図 1トレンチ平面図 数字は遺構番号・（ ）は上からの掘り込み

32.4～32.7 m付近で締まりのある黄褐色粘質土(10YR5/6)となる。表土の堆積状況は1トレンチ溝SD-1の南北壁(第12図④⑤)、2トレンチ溝SD-7北壁(第23図④)などを参照のこと。

第3節 遺構と遺物

①1トレンチ(第4・5図、図版4)

調査地の東側、配水タンク建設予定地に設定した円形の調査区である。中央部でほぼ南北に走る溝SD-1、その東側に竪穴住居SH-18・73と墓坑SK-107、北東部で掘立柱建物SB-128の一部、南東部で不整形の土坑や直径0.3 m程度の小規模な柱穴などが分布する。遺構面の南北2箇所で焼土を確認したが、これに伴う遺構は検出できなかった。

(1)住居 SH-18(第6・7図、図版5・14)

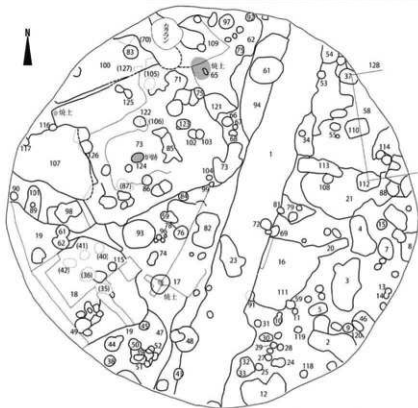
調査区南西に位置する竪穴住居。平面形状は東がふくらんだ楕円形で、南西は調査区外。南東で土坑SK-18を切る。東西3.7×南北3.7 m以上、深さ0.4 m。北壁の掘り込みはなだらかで、南壁はおおむね垂直に立ち上がる。柱穴やカマド・炉・貼床などは検出しなかった。竪穴住居としたが、不整形な平面や掘り込み形状などから、大規模な土坑である可能性もある。

遺物は埋土全体から土器片などが31.22kg出土したが、接合状況は悪い。甕は頸部付近までタタキ調整を残すものが大半である。内面をよく削り器壁を薄くしているものもある(第7図1・2)。壺口縁(7図3～11)に文様は見られないが、外面の一部にベンガラが付着したものがある(7図10)。大型の鉢(7図21・22、図版14-2)は直径の異なる別固体の口縁部だが、いずれも頸部の突帯に刻目を施す。台付鉢(7図23、図版

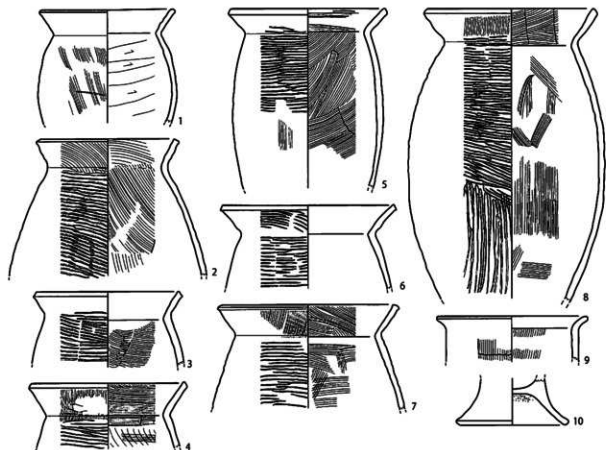
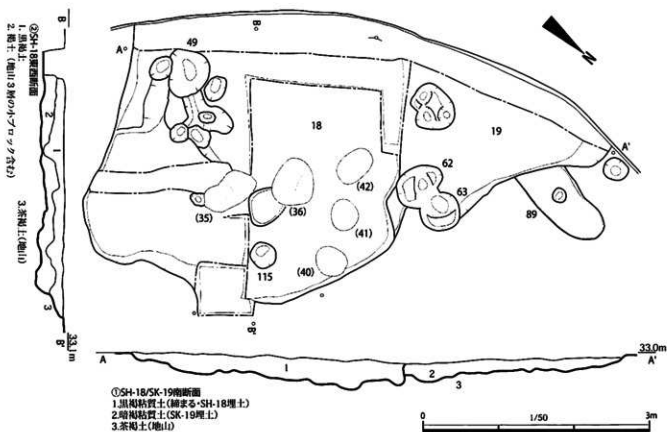
14-3)は脚台に二孔一組で三方向のゆがんだ円形透かし孔があるが、貫通しているのは一箇所のみである。土坑SK-21でも同様に、透かし孔が貫通していない高杯脚部(16図4)が出土している。器台(7図32、図版14-3)の脚部外面中央には長さ6 mm程度の糊状の植物種子圧痕がある(下写真)。この器台は外面にほとんどナデ調整を施さず、口縁も水平に整えないなど粗雑な作りである。小型のコシキ(7図33)は底部に単孔がある。

(2)住居 SH-73(第8～10図、図版2・3・14)

調査区中央北西に位置する竪穴住居。西壁の大半を土坑SK-107に、西隅を不整形の土坑SK-73に、北隅を溝SD-70に切られ、北東で竪穴住居SH-100

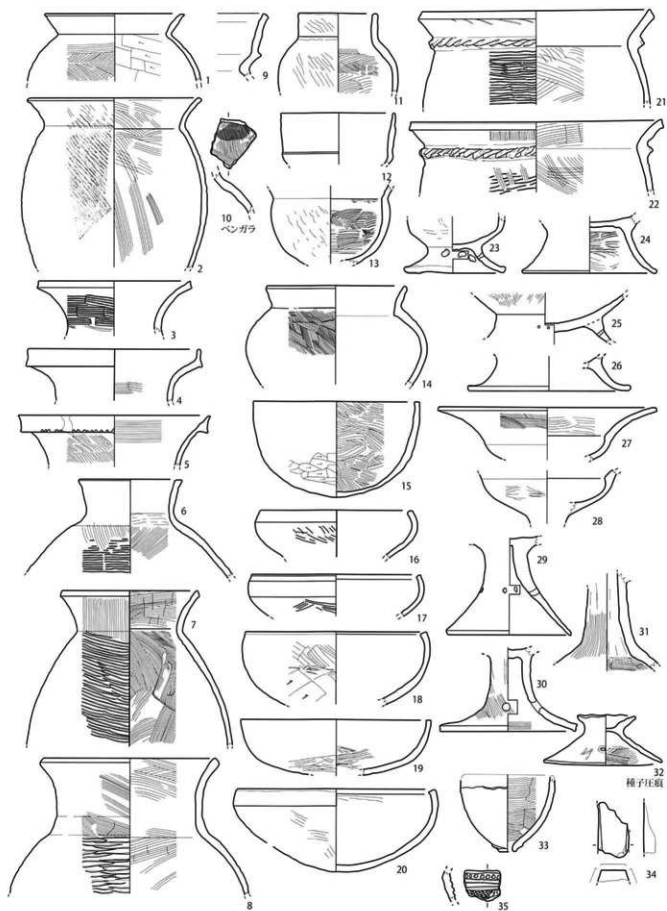


第5図 1トレンチ遺構番号



第6図 1トレンチSH-18・出土遺物

0 1/4 10cm



第7図 1トレンチSH-18出土遺物

0 1/4 10cm

を切る。平面形状は東西に長い長方形で、規模は北辺 5.8 m、南辺 6.1 m、東辺 5.2 m、西辺 5.0 m、深さ 0.12～0.41 m。北西にベッド状遺構(3.7×1.5 m・図版 6-1)。主柱穴は柱穴 PIT-126 ほか 3 基で、西隅には所在しない。中央やや南で炉(SK-124、0.5×0.4×深さ 0.03 m・8 図 6・図版 6-3)があり、ごく浅いくぼみに焼土が集まっていた。東半中央付近の柱穴 PIT-123 (0.38×0.55×深さ 0.4 m・図版 6-2)の底面近くから、ほぼ完形の小型丸底壺(10 図 13、図版 14-4)が出土した。

遺物は埋土全体から土器片などが出土した(32.22kg)。壺は体部外面に刷毛調整を施し、タタキは見られない。香型器台(9 図 13)は今回の調査で唯一の出土。大型の広口壺(9 図 18)は口縁端部と頸部突帯に同一の刷毛工工具による刺突文を施す。ガラス状の小型土器(10 図 3・4、図版 14-6)は精製され砂粒を含まない胎土で、杯部外面全体を磨いてから鋭利な工具による細線刻を施す。杯部の文様は口縁下に平行した二本の直線文と、そこから下に向けて緩やかに湾曲して先端の尖る鉤状文からなる。土器を上から見て口縁の周囲に文様を展開させると、巴形銅器を思わせるような文様構成である。杯部と脚部は接点がないが、胎土や調整から同一固体と判断して図化した。脚部には単孔三方向の透かし孔がある。ミニチュア土器は杯などがあり、高杯の脚部らしき小片(10 図 9、図版 14-6)は内面に放射線状の線刻があり、外面にも一部線刻が残る。鉢口縁部(10 図 12)は住居内中央部の柱穴 PIT-122 から、口縁の一部が欠損するのみでほぼ完形の小型丸底壺(10 図 13、図版 14-4)は住居内東部の柱穴 PIT-123 から出土した。鉄器は鎌の一部(10 図 15)、針状製品(10 図 14)がある(図版 16-4)。砥石とした石材(10 図 16)は上下両端を欠損している。使用面が見られないことから自然石の可能性もある。埋土からはこのほかに縄文土器(鉢、深鉢)口縁部(10 図 17～26、図版 14-7)や石鐮(10 図 27、図版 16-5)も出土した。

(3) 住居 SH-100 (第 8 図)

調査区北西端に位置する竪穴住居。大部分が調査区外に位置し、南東を竪穴住居 SH-73 に切られ、東を溝 SD-70 に切られる。深さ 0.12～0.2 m と浅い。規模は東西 4.5 m 以上。調査区端で南西隅らしきカーブがあるので、東壁が溝 SD-70 付近とすれば

東西辺 5.0 m 程度か。床面はほぼ平坦で、柱穴 PIT-83 (規模 0.6×0.54 m、深さ 0.24 m)はこの住居に伴うものか。カマドや炉、貼床などは検出しなかった。高杯口縁部(第 10 図 28)などが出土した。

(4) 建物 SB-128 (第 11 図、図版 7)

調査区東部に位置する掘立柱建物。大部分が調査区外にある。建物を構成する柱穴は 3 基を検出し、北から順に PIT-37 (0.6×0.75×深さ 0.54 m・図版 7-2)・PIT-110 (0.7×0.8×深さ 0.48 m・図版 7-4)・PIT-112 (0.7×0.95×0.43 m・図版 7-5)。いずれも平面は隅丸方形で深く、底面は平坦、柱穴 PIT-110 のみ一部が深い。柱痕は検出しなかった。柱穴間距離は芯々で 2.1 m の等間隔。

南の柱穴 PIT-110・112 は土趾 SK-21 の下層で検出した。PIT-37 や PIT-110 から裏脚部(第 11 図 1)などが出土したが、遺構時期を示すものではないだろう。柱穴規模などからみて、古代に属する建物か。

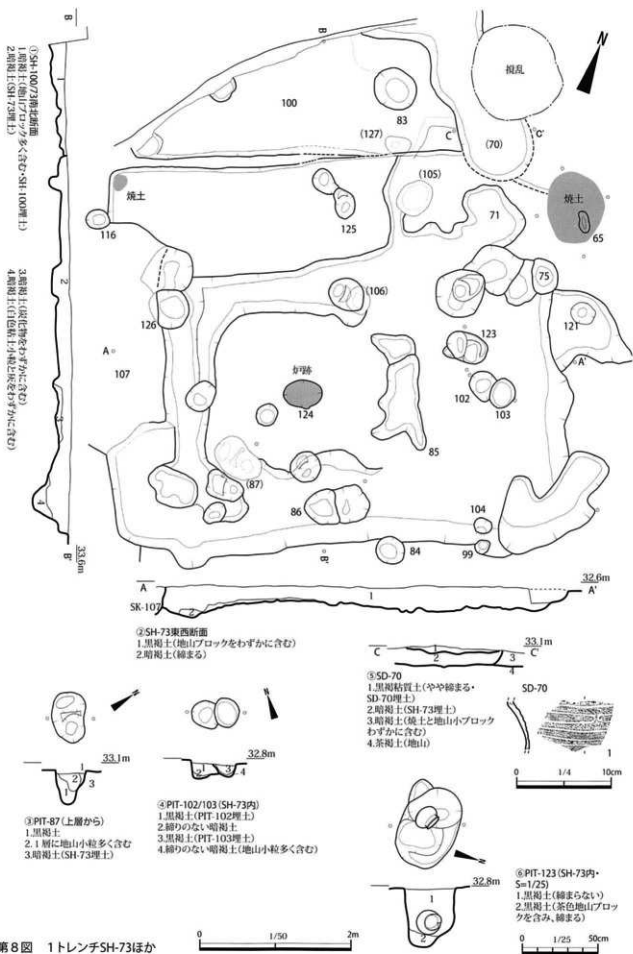
(5) 溝 SD-1 (第 12・13 図、図版 3・8・16-3)

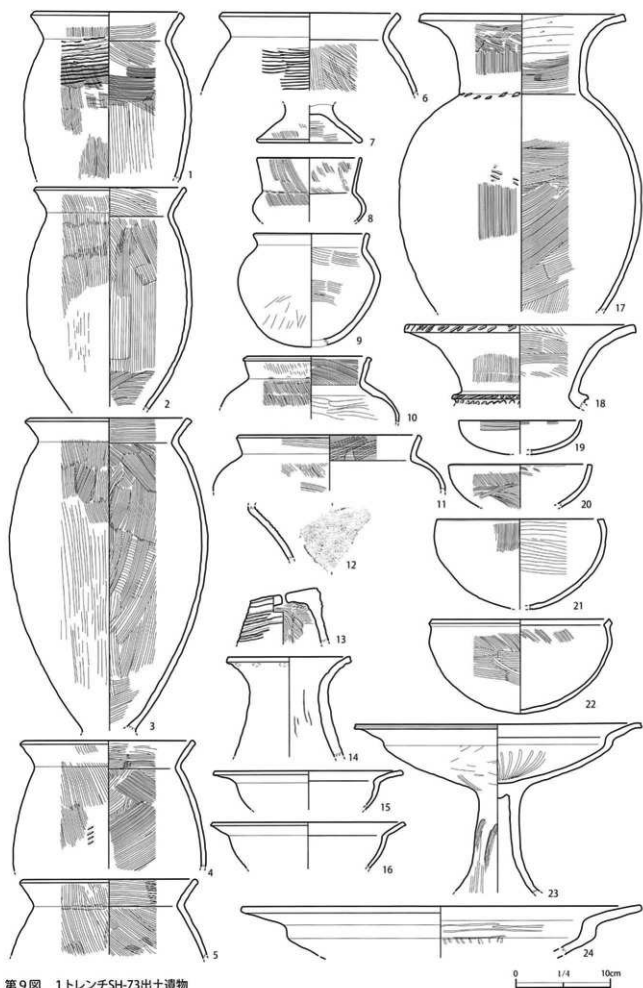
調査区中央を北から南に流れる溝。長さ 15.4 m を検出し、両端は調査区外へ続く。幅は調査区北端で 1.85 m、南端で 2.8 m。標高は北端で 32.73 m、南端で 32.46 m。底部はほぼ平坦。土趾 SK-16・23・61、柱穴 PIT-48 など他の全ての遺構を切る。全体を 3 分割(北区・中央区・南区)して掘削した。

遺物は中世を中心に縄文土器と弥生時代末から古墳時代初期の土器などを含み、62.32 kg が出土した。黒色土器(13 図 4～7)はいずれも内外面にヘラミガキを施す。滑石製石鍋(13 図 8～11)のうち、8 は口縁端部に縦方向の把手がある。11 は底部の再利用品か。石製品のうち、磨製石斧(13 図 37・38)はいずれもごく小片。子持勾玉模造品(13 図 41、図版 16-2)は扁平で未貫通の孔が 1 個見られる。やや大きな石材(13 図 42、図版 15-6)は残存する二面の全体にベンガラが付着し、破断面の一部にかけて薄く煤が付着する。

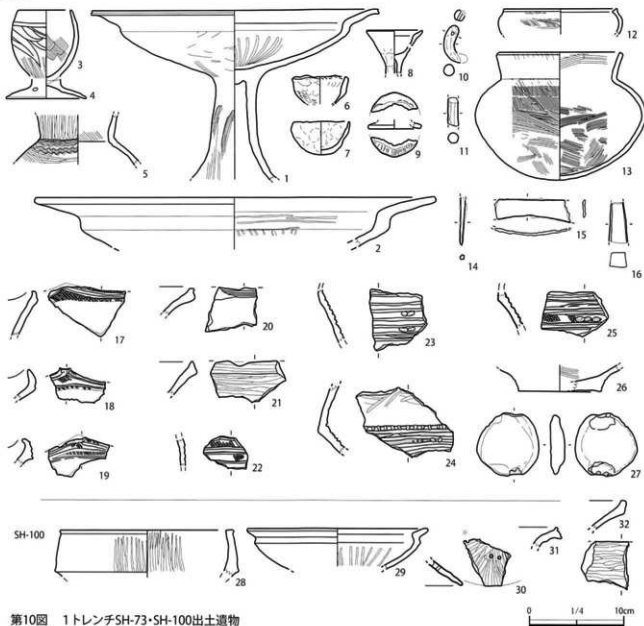
(6) 溝 SD-70 (第 8 図⑤、図版 8-5)

調査区北西に位置する浅い溝。長さ 2.3 m を検出し、北は調査区外へ続く。南端は明確に検出できなかった。竪穴住居 SH-73・100 を切る。幅 1.1 m、深さ 0.09 m。





第9図 1トレンチSH-73出土遺物



第10図 1 トレンチSH-73・SH-100出土遺物

(7) 土坑 SK-3 (第4図)

調査区南東、土坑SK-3の東に位置する。南北に長く規模は $2.15 \times 1.15 \times 0.3$ m。縄文土器片、石鏃などが出土した(第16図9・10、図版16-5)。

(8) 土坑 SK-4 (第4図)

調査区南東、土坑SK-3の北に位置する。南北に長く規模は $1.6 \times 1.05 \times 0.06$ mと浅い。縄文土器片が出土した(第16図11)。

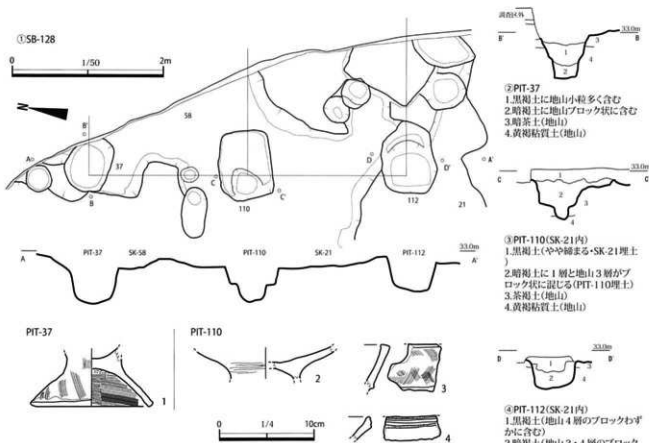
(9) 土坑 SK-12 (第4図)

調査区南端、溝SD-1の東に位置する。平面は不

整形で調査区外へ続き、規模は 1.0 以上 $\times 1.9 \times 0.46$ m。縄文土器片が出土した(第16図12)。

(10) 土坑 SK-16 (第12図、図版9-1)

調査区中央のやや東に位置する土坑。溝SD-1に西半を切られる。東隅は溝状に伸びる。この部分は別遺構(溝SD-20・長 $1.3 \times$ 幅 $0.4 \times$ 深 0.2 m)としたが、切り合い関係は確認できていない。規模は東西 $1.5 \sim 2.2$ m以上、南北 2.8 m、底面はほぼ平坦。高杯脚部(第12図1)が出土した。中央やや南東よりで柱穴PIT-111($0.34 \times 0.75 \times$ 深さ 0.3 、第12図・断面③5層)を検出した。



第11図 1 トレンチSB-128・出土遺物

(11) 土坑 SK-17 (第4図)

調査区中央のやや南西に位置する焼土。小さく焼土が集まる範囲(0.16×0.26×深さ0.06 m)の周囲に焼土をこわすかき込む褐色土が楕円形状(2.0×2.06×深さ0.1 m)に広がる。遺構検出面では掘り込みのラインを検出できず、断ち割りで確認した。遺物は出土していない。

(12) 土坑 SK-19 (第6図)

調査区南西端、住居SH-18に切られる。規模は2.8以上×3.0以上×0.1 mと浅い。縄文土器の深鉢口縁(16図13～16)、弥生後期の甕脚台(13図17)などが出土。

(13) 土坑 SK-21 (第14～16図、図版9-2)

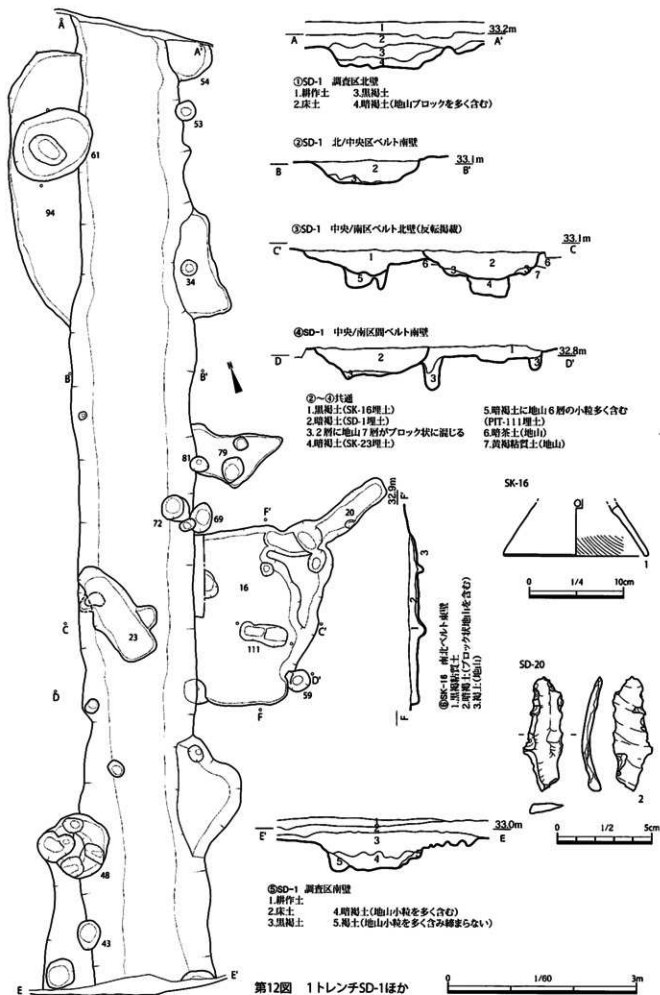
調査区北東部に位置する土坑。重機掘削段階から土器が集中した状態で検出した。平面はゆがんだ円形で規模は東西2.5 m程度、北端は溝状の落ち込み(溝SD-58)に連続して明確に検出できなかった。南北4.0 m程度の大きさ。下層から掘立柱建物

SB-128の柱穴PIT-110・112を検出した。土坑は深さ0.14 mと浅く、上面1 m四方の範囲で土器片を多量に検出した(12.27 kg)が、接合状況は悪い。本来の遺構上部はかなり削平されているようだ。遺構面を掘削して構築した土坑ではなく、くぼみに土器片を投棄したものか。

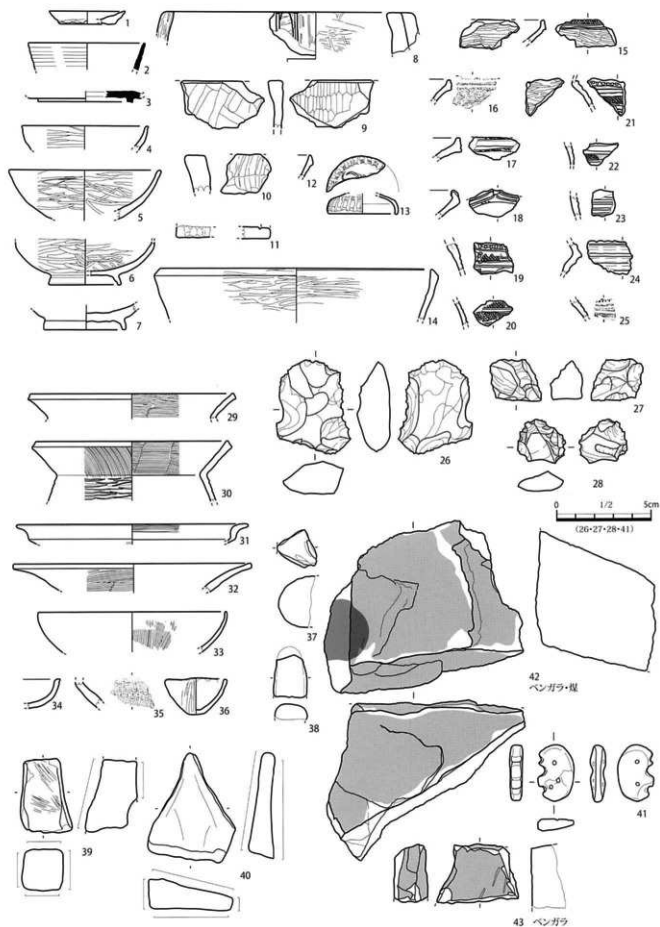
遺物のうち、甕は脚台がつかない長胴で、頸部までタタキを施す。壺口縁のうち、下端に刻み目を施すものがある(15図13)。ガラス状土器(16図5、図版15-2)は脚部外面の三箇所に「ハ」字状線刻があり、その間に二個一組の透かし孔がある。住居SH-73から出土した線刻のある精製品(10図3・4)と同様の器形だがやや大きく、調整や胎土は普通程度である。円縁には一部が赤く変色したもの(16図6)や黒く変色したもの(16図7)がある。

(14) 土坑 SK-23 (第12図、図版9-3・10-4)

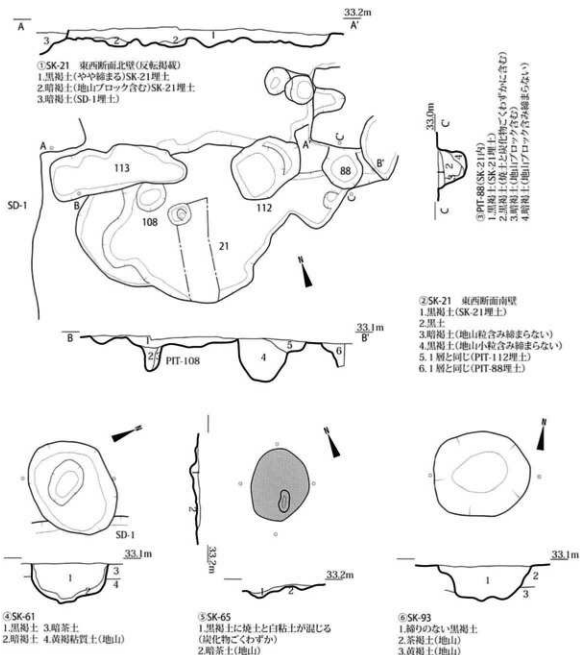
調査区中央、溝SD-1の下層で検出した土坑。平面は隅丸長方形で規模は1.2×0.6×深さ0.32 m(12図③断面4層)。この部分でSD-1の深さが0.45



第12図 1 トレンチSD-1ほか



第13図 1トレンチSD-1出土遺物



第14図 1トレンチSK-21ほか

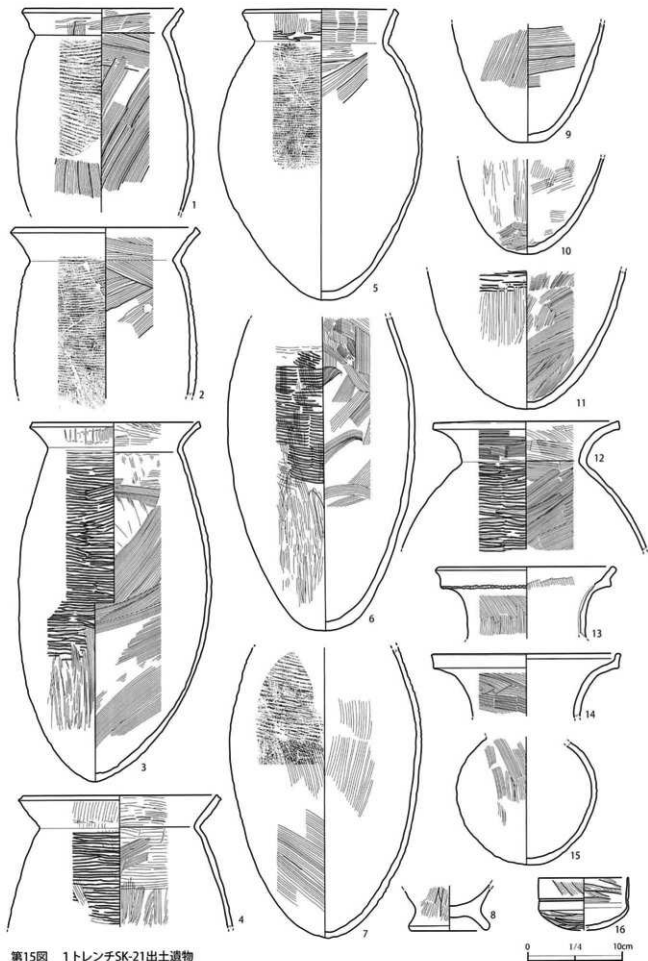
mあるため、本来は0.77 m以上の深さである。北西の一部が工事のためのボーリングによって破壊されていた。遺物は出土しなかった。

(15) 土坑 SK-39 (第4図)

調査区南端、溝SD-1と住居SH-18の間に位置し、SH-18に切られるようだが埋土が浅いため判然としない。規模は $1.5 \times 1.5 \times 0.06$ m。波状文を施す壺休部や壺口縁などが出土(16図18～20)。

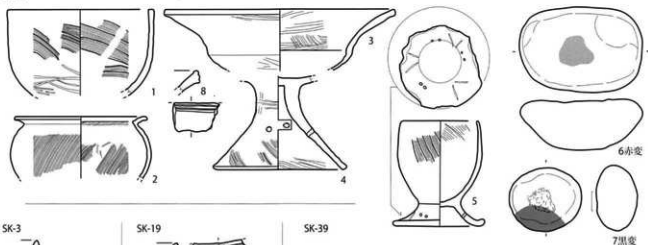
(16) 土坑 SK-61 (第14図④、図版9・5・10・6)

調査区北部の中央に位置する土坑。東を溝SD-1に切られる。平面楕円形で規模は 1.05×1.4 m、深さ0.52 m。中央部がわずかに深くなる。埋土は壁から床面にかけて粘土を貼り付けたような状態であった。壺口縁や土師器の杯蓋などが出土(16図21・22)。



第15図 1 トレンチSK-21出土遺物

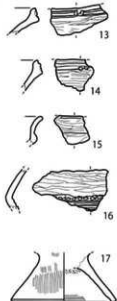
SK-21



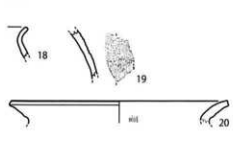
SK-3



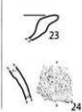
SK-19



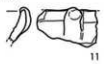
SK-39



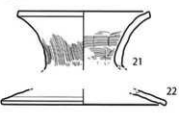
SK-65



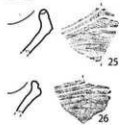
SK-4



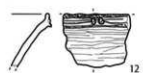
SK-61



SK-62



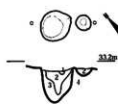
SK-12





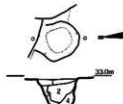
①PIT-5

- 1.黒陶土
- 2.暗茶土
- 3.暗陶土
- 4.黄褐粘質土(地山)



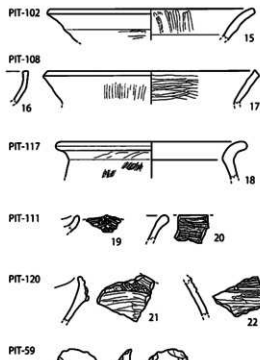
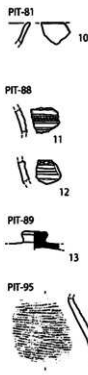
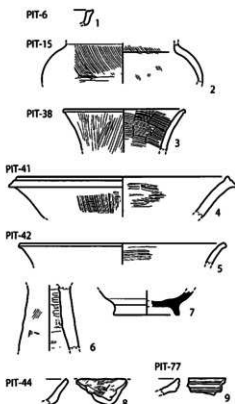
②PIT-66/67

- 1.灰黄陶土に炭化物ごくわずかに含む
- 2.灰陶土に焼土小粒わずかに含む
- 3.2層に地山小粒多く含む
- 4.黄褐粘質土(地山)

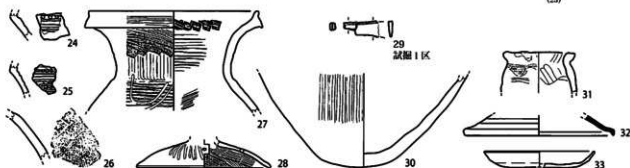


③PIT-88

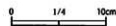
- 1.黒陶土(SK-21埋土)
- 2.黒陶土(焼土と炭化物ごくわずかに含む)
- 3.暗陶土(地山ブロック含む)
- 4.暗陶土(地山ブロック含み締まらない)



1 トレンチ検出中



第18図 1 トレンチPIT・検出中出土遺物



(21) 土坑 SK-107 (第17図、図版3・6・15-5)

調査区西端に位置する埋葬施設。西で竪穴住居SH-73を切り、東は調査区外へ続く。南北2.7 m×東西3.3 m以上の中央部に東西2.2 m×南北1.7 mの掘り込みがあり、この部分にベンガラと白砂を含む締まった粘質土が0.75×1.0 mの範囲で楕円形に敷かれていた(17図断面③3層、図版6-7)。ベンガラの量はそれほど多くなく、やや赤色が濃い部分がある程度であった。この層の周囲は幅0.3～0.5 mの溝状に掘り込まれていた。断面からは棺材の抜き取り痕や腐朽痕は確認できなかった。埋土中や周辺から3～10 cm程度の軟質凝灰岩の破片(図版15-5右側)が出土したが少量(8.39kg)なため、石棺であったとは考えにくい。

遺物のうち、刀子(17図2、図版16-4)は埋土(第17図断面③2層)から出土した。先端を欠損し、柄部にわずかな木質が残存する。鉄のごく小片(一辺1.5 cm)も出土したが、図示していない。三角形の板状凝灰岩破片(17図3・4、図版15-5)は2点とも同様の厚さで同質の石材だが、接合しない。図示した上面全体に白粘土状の顔料が塗布してあるようだ。軟質凝灰岩破片の中にはベンガラが付着するものもある(実測図なし、写真のみ掲載・図版15-5)。埋土から縄文土器の破片や両端を打ち欠いた石錘(17図5～8・図版16-5)も出土した。

(22) 土坑 SK-113 (第4図)

調査区北東、土坑SK-21の北に位置する。平面図ではSK-21を掘り込むように表現しているが、断面観察用ベルトの間に位置していたため前後関係が不明である。東西に長く、規模は1.8×0.6×0.05 mと浅い。壺口縁など少量の土器が出土した(16図35・36)。



写真3 体験発掘

(23) 柱穴 PIT-5 (第18図①)

調査区南東部の中央、土坑SK-16の南西に位置する柱穴。平面は長楕円形で規模は0.43×0.76×深さ0.48 m。

(24) 柱穴 PIT-66/67 (第18図②)

調査区北西部の南側、溝SD-1と竪穴住居SH-73の間に位置する柱穴。平面はどちらも円形で、柱穴PIT-66は規模0.45×0.4×深さ0.44 m、柱穴PIT-67は直径0.2 m×深さ0.08 mとごく浅い。

(25) 柱穴 PIT-87 (第8図③)

調査区北西、竪穴住居SH-73の上層から掘り込む柱穴。平面は楕円形で規模は0.4×0.52×深さ0.44 m。

(26) 柱穴 PIT-88 (第18図③)

調査区東部、土坑SK-21の下層で検出した柱穴。平面はほぼ円形で規模は0.45×0.5×深さ0.4 m、底部は平坦。縄文土器のごく小片が出土(18図11・12)。

(27) 柱穴 PIT-102/103 (第8図④、図版6-5)

SH-73内部の南西、PIT-123のすぐ南に位置する柱穴。柱穴PIT-103が新しい。規模は柱穴PIT-102が直径0.35×深さ0.25 m、柱穴PIT-103が0.33×0.4×深さ0.18 m。柱穴PIT-102から高杯(18図15)が出土した。

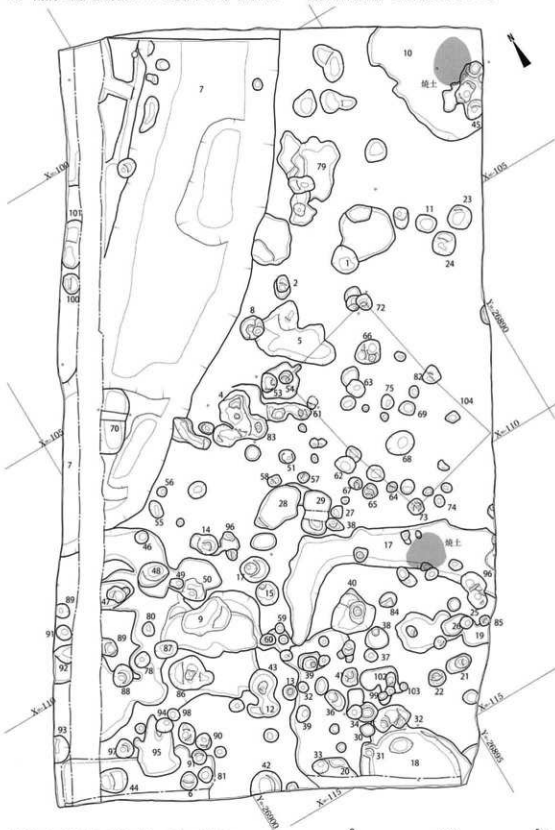


写真4 埋め戻し後(北から撮影)

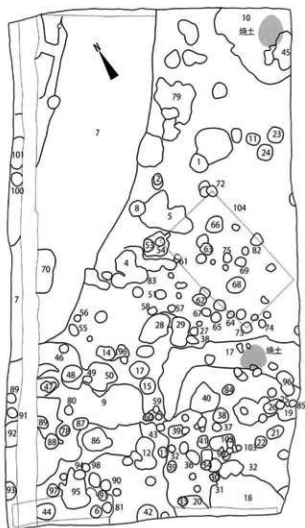
②2トレンチ（第19図、図版4）

調査区の西側、管理建物棟の建設予定地に設定した調査区である。調査区北東から南西にかけて斜めに大規模な溝 SD-7 があり、東隅に竪穴住居 SH-10・南隅に竪穴住居 SH-17 を検出した。住居はい

ずれも削平され浅い。南半では平面円形で直径0.2～0.5 m程度の柱穴や不整形の土坑が多く分布するが、掘立柱建物1棟（SB-104）を復元したのみ。調査区西壁近くを南北に通る配水管（塩ビ製パイプ、現在は未使用）で破壊されている。



第19図 2トレンチ平面図（数字は遺構番号）



第20図 2トレンチ遺構番号

(1) 住居 SH-10 (第21図、図版10)

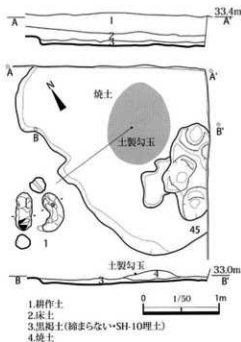
調査区東隅に位置する竪穴住居。大部分が調査区外へ続く。規模は南北3.15×東西2.3m以上、深さ0.08mとごく浅い。南半で不整形の土坑SK-45に上層から掘り込まれる。柱穴は検出しなかった。検出範囲のほぼ中央で埋土上層に焼土が乗る(図版10-3)。焼土の規模は0.8×1.1×厚さ0.12m、この上面で土製勾玉が出土した(21図1、図版16-1)。

(2) 住居 SH-17 (第22図、図版11)

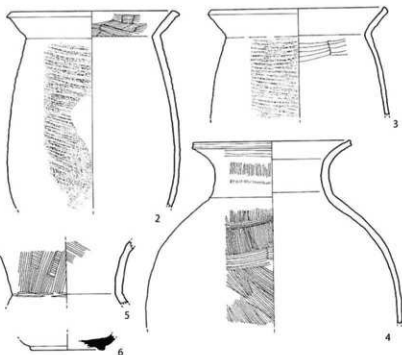
調査区南東隅に位置する竪穴住居。東端は調査区外へ続く。北半の溝状に深い部分のみが残り、南半は削平されて検出できなかった。規模は南北5.95m以上、東西4.7m以上、深さ0.2m程度。内部で柱穴を多く検出したが、PIT-40などがこの住居に

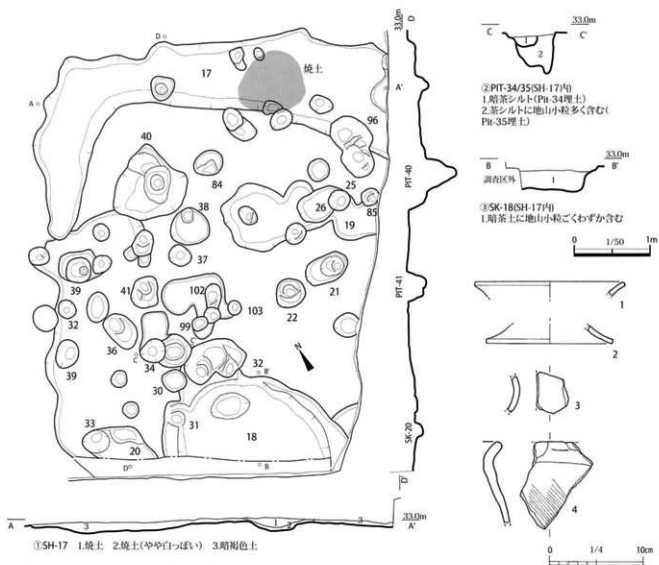


写真5 2トレンチ作業状況



第21図 2トレンチSH-10・出土遺物





第22図 2トレンチSH-17・出土遺物

作うものか。北端溝部の中央付近で焼土（ $0.8 \times 0.9 \times$ 厚さ 0.14 m）があり、その下位にやや白っぽい焼土がごく薄く（厚さ $0.04 \sim 0.08$ m）堆積する（図版 11・3・4）。

遺物は北半の溝部分から少量出土した。高杯（22 図 1・2）、ジョッキ型土器の把手（22 図 3）、古代の土師器甕（22 図 4）などがあるが、いずれも小片である。

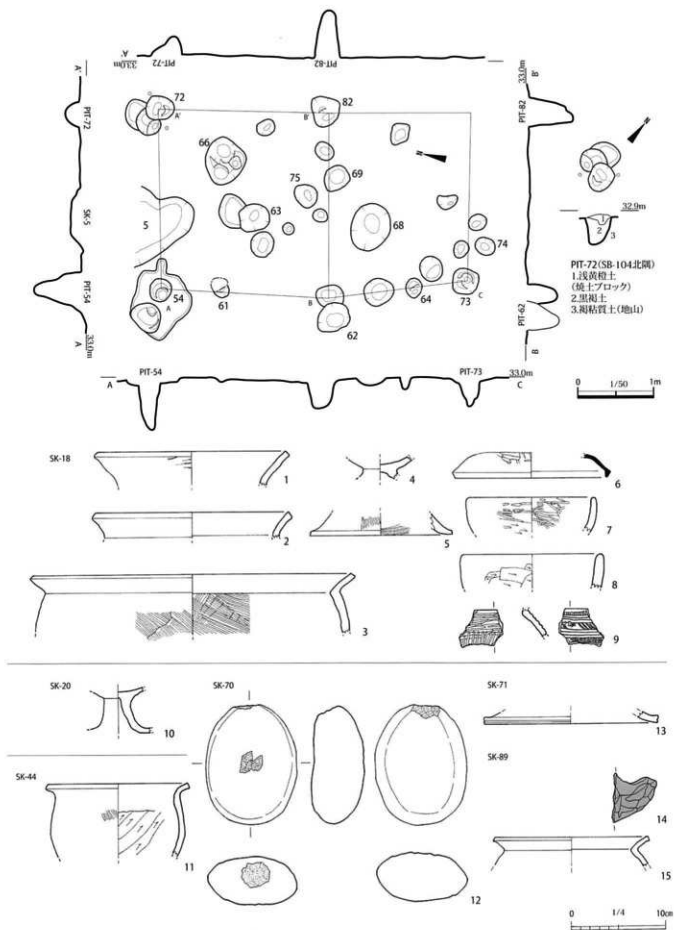
(3) 建物 SB-104（第 23 図）

調査区中央部の東半に位置する 1×2 間の掘立柱建物。南東隅の柱がは検出できなかった。方向はほぼ方位に沿う。南北 $4.0 \times$ 東西 2.4 m。時期を示す遺物はなく、PIT-73・PIT-82 からごく小片が出土したのみ。PIT-72（23 図、図版 13・8）は北東隅の柱穴。規模は $0.3 \times 0.4 \times$ 深さ 0.38 m。焼土ブロッ

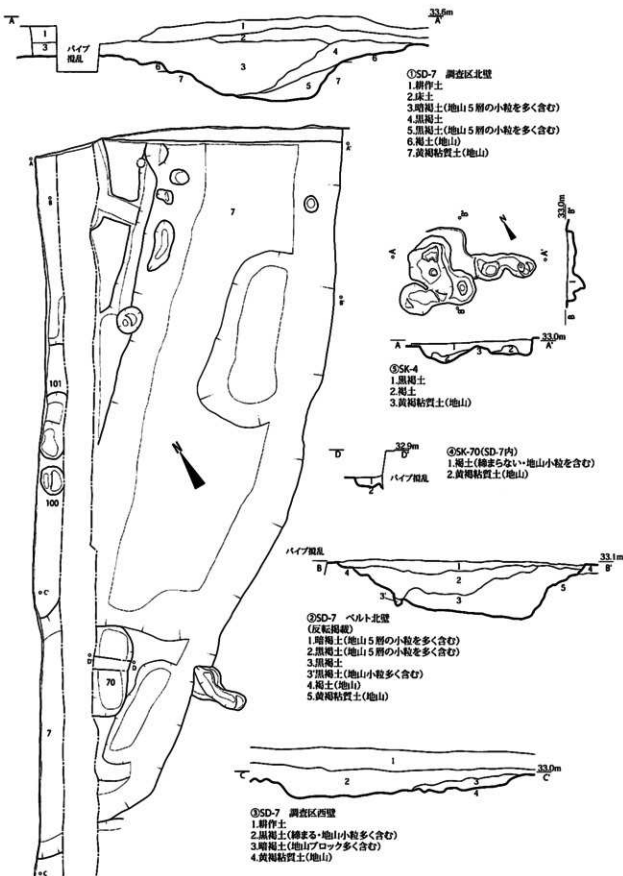
クを含む埋土（23 図・断面 1 層）があり、ここから縄文土器の小片が出土した（26 図 20）。柱穴規模から見て、中世以降の所屬か。

(4) 溝 SD-7（第 24・25 図、図版 4・12・13）

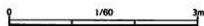
調査区北西部に位置する溝。長さ 12.5 m を検出した。調査区北端から南西に伸び、西壁付近でやや浅くなって方向を北西に変える。中央付近の幅 3.96 m、深さ 0.96 m。底面はほぼ平坦で、東から埋まっている。埋土は暗褐色から黒褐色を呈し、地山小粒の量などで分層した。各時期の出土遺物があり、埋没期間が長かったことを示す。甕は長胴で脚部をもつ（25 図 6～10）が、全体が復元できる個体はない。内面を削って薄くしたものもある（25 図 5、図版 19）。大型壺（25 図 14、図版 15・9）は底部を欠損するのみでほぼ完形、溝中央部の埋土中位か

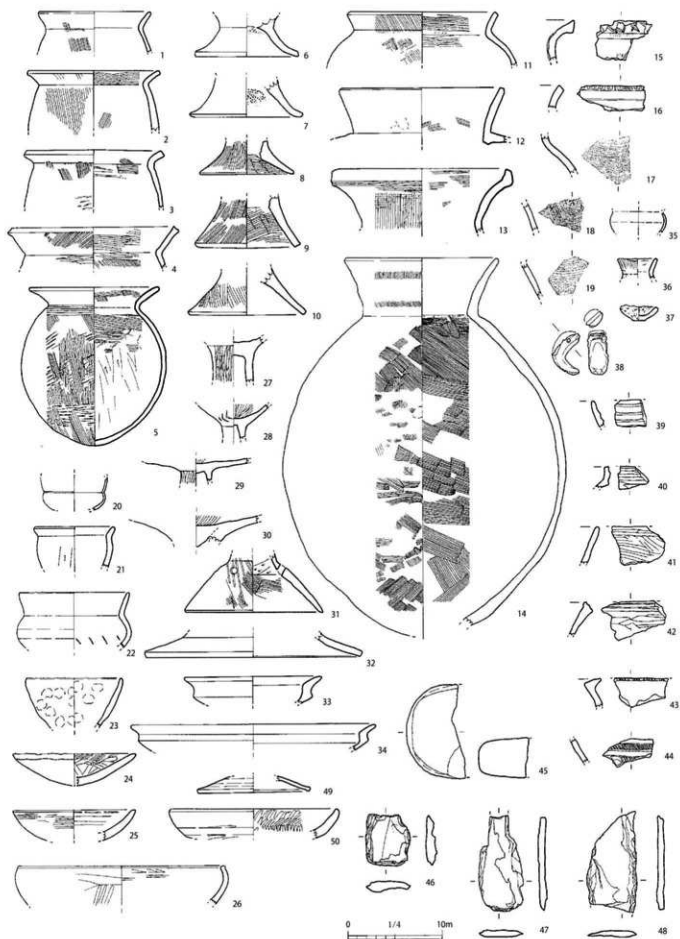


第23図 2トレンチSB-104・土坑出土遺物

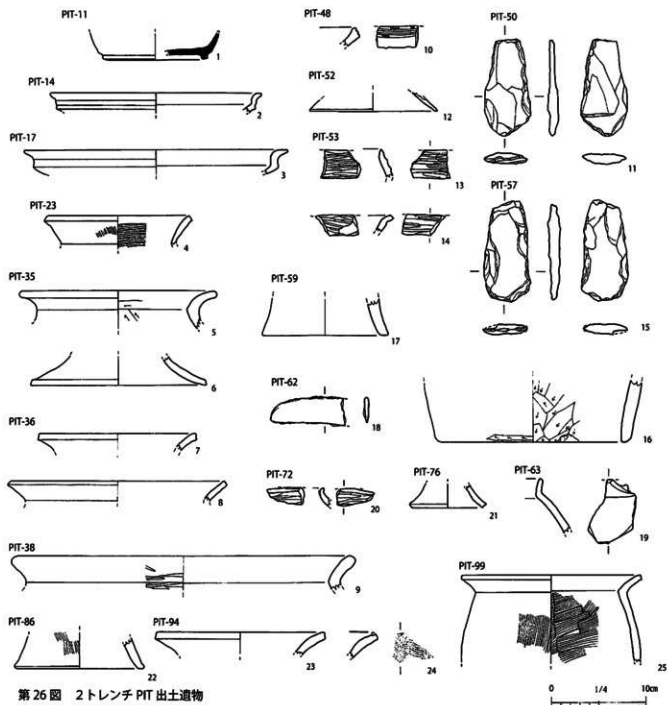


第24図 2トレンチSD-7





第25図 2トレンチSD-7出土遺物



第26図 2トレンチPIT出土遺物

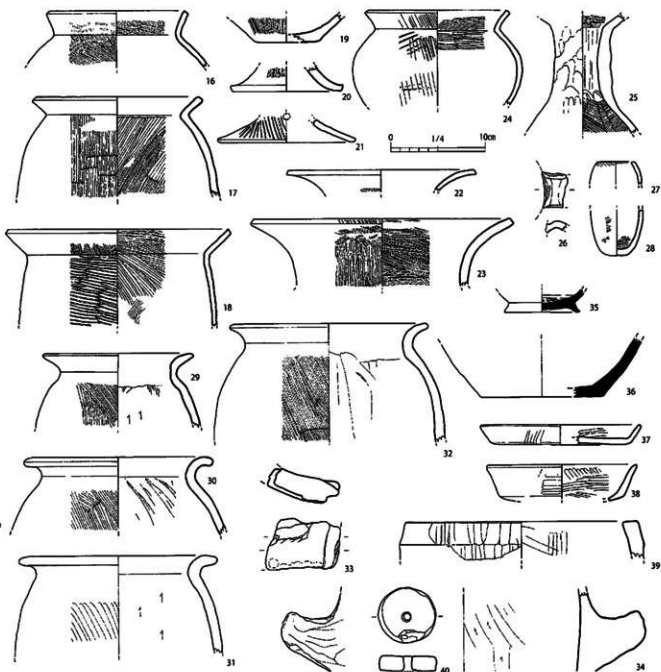
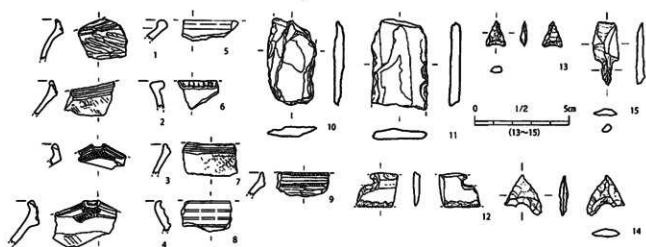
ら横に倒れた状態で出土した。鉢は小型で丸底のもの(25図20～22)と扁平なもの(25図24・25)、大型品(25図26)がある。高杯の杯部(25図34)は小片のため、復元径に難がある。土製勾玉(25図38・図版16-1)は一部が欠損するが、頭部に数本の線刻を施した丁字頭勾玉である。縄文時代の遺物には土器小片(25図39～44)、石器(磨石[25図45]石剣[25図46～48・図版16-5])がある。古代の遺物には須恵器の杯蓋、土師器の杯がある(25図49・50)。

(5) 土坑 SK-4 (第24図⑤、図版13-3)

調査区中央の西側、溝SD-7の東に位置する土坑。平面は不整形で規模は1.3×1.3×深さ0.32m、複数の柱穴が同時に埋没したものか。遺物は土器小片のみ。

(6) 土坑 SK-18 (第22図③、図版13-4)

調査区南隅に位置する土坑。南西部は調査区外へ続く。竪穴住居SH-17に伴う遺構か。規模は長さ1.22m以上、幅2.2m、深さ0.3m。底部は平坦。出土遺物(23図1～9)は弥生～古墳時代の土器



第27図 2トレンチ検出中出土遺物

を中心に、縄文・古代を含む。

(7) 土坑 SK-70 (第24図④、図版13-5・6)

調査区中央西側、溝SD-7の下層で検出した土坑。北西を排水パイプに掘り込まれる。平面は長楕円形で規模は1.45×0.6×深さ0.2m、底部は平坦。遺物はタタキ石(23図12)のみが出土。

(8) 柱穴 PIT-34/35 (第22図②、図版13-7)

調査区南半、竪穴住居SH-17内部に位置する柱穴。竪穴住居に伴う柱穴。PIT-34がPIT-35を掘り込む。規模はPIT-35が0.32×0.59×深さ0.62m、PIT-34が0.29×0.4×深さ0.17m。PIT-35から高杯脚部(26図6)、古代の甕(26図5)が出土。

(9) 柱穴 PIT-62 (第19図)

建物SB-104西中央の柱穴を掘り込む。埋土から鉄鏝が出土(26図18、図版16-4)。

(10) その他の出土遺物

検出中に出土した遺物はトレンチごとに分けて掲載した(1トレンチ:第18図、2トレンチ:第27図)。鉄器(刀子破片、第18図29、図版16-4)は試掘調査1区で検出中に出土した。2トレンチの縄文土器(第27図11~12)は口縁部を掲載した。打製石器にはサヌカイト(第27図12・14)と黒曜石(第27図13・15)とがある。カップ形のミニチュア土器(第25図27・28)は同径に復元できたが接合せず、胎土も微妙に異なる別個体である。古代の移動式カマド(第27図33)は小片、下端焼き口付近の破片か。

第4節 まとめ

今回の調査によって、調査区全体から各時代の遺構・遺物が出土した。上層がかなり削平されていたため、残存状態が悪い遺構が多い。中心となる時期は弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけてで、住居(1トレンチSH-18・73、2トレンチSH-10、18)や溝(2トレンチSD-7)などがある。住居は時期や方位が微妙に異なっている。2トレンチの溝SD-7は埋土に水性堆積物が見られないことから、水路以外の用途のために掘削されたのだろう。1トレンチの土坑SK-21からもこの時代の遺物が

出土したが、二次的な埋没の可能性もある状況だった。このため、下層で検出した掘立柱建物SB-128の時期は明らかにし難い。

縄文時代の遺物も少量ながら調査地全体から出土した。後期から晩期にかけての磨削縄文を施した土器(鉢・深鉢)や石器(石斧・石錐・石鏃・石鏝)、石核などがある。土器片は小片がほとんどで接合するものもないことから、遺構の原位置は周辺にあって開墾等で移動したものと考えられる。石斧や石錐(図版16-4)もあり、野山や河川で幸を求めた当時の生活について想起させられる。

古代から中世にかけての遺物も出土し、厚手で破損にくい土師器が目立ったほか、少量の須臾器や黒色土器、滑石製品があった。この時代の遺構には1トレンチ溝SD-1のほか、二棟の掘立柱建物があり、柱穴規模などから1トレンチSB-128は古代、2トレンチSB-104は中世の可能性がある。

今回の調査範囲は限定的であったが、このように多様な時代の遺構を検出し、各種の遺物が出土した。これらの遺構は調査地周辺にもさらに連続して分布していたことは明らかである。昭和43年の圃場整備事業に際しての採集資料などからは、かなり広範囲に及ぶ大規模な遺構群が埋蔵されていたようである(第1章注1)。当地区において断続的ながら長期間の人類活動が継続されてきたのは、周辺の集落遺跡にも共通する要因だが、河川に近接した高乾な台地上という環境にあったためと考えられる。

方保田遺跡の南東台地上に位置する方保田東原遺跡は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて発展した熊本県内最大級の拠点集落遺跡である。方保田東原遺跡ではこれまで60回以上の発掘調査によって、鉄製品や赤色顔料を生産し、流通の中核的役割を果たしたと評価されている(第1章注2)。

方保田遺跡と方保田東原遺跡は、菊池川の支流である方保田川が開削した段丘崖をはさみ、直線距離で100m程度の至近距離にある。方保田遺跡や隣接する白石古閑の上遺跡、白石遺跡は、存続時期や規模などから方保田東原遺跡の周辺に位置して生産された物資の供給を受けた「子村」と位置づけることができる。しかしこれらの遺跡においては調査事例の蓄積がある方保田東原遺跡とは異なり、詳細な内容を確認できる発掘調査の機会に乏しいのが現状である。今後に期すこととしたい。

写 真 图 版



1 南から



2 北西から

図版2 1トレンチ完掘状況



1 1トレンチ全景 南西から



2 SH-73 南から



1 SD-1 南東から



2 SK-107 南西から

図版4 2トレンチ完掘状況



1 全景 南から



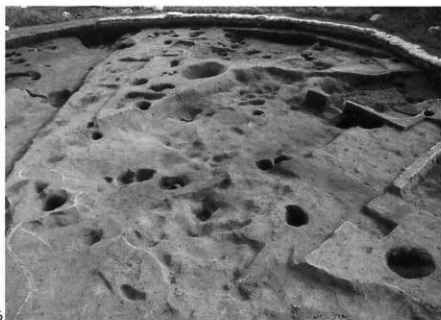
2 SD-7 北東から



1 SH-18 東から



2 SH-18 北西から



3 SH-73 北西から

図版6 1トレンチSH-73・SK-107



1 SH-73ベッド状遺構 南西から



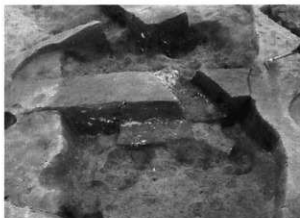
2 PIT-123 (SH-73内) 南東から



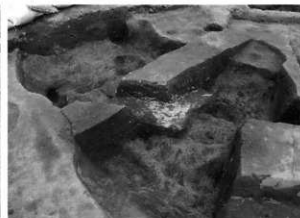
3 土坑SK-124 (SH-73内) 北西から



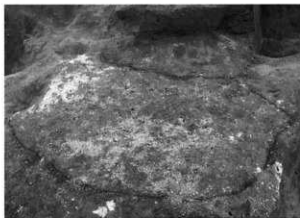
4 PIT-102/103切り合い (SH-73内) 南西から



5 SK-107 北西から



6 SK-107 南東から



7 SK-107白砂層 (ベンガラ混) 南東から



8 調査区西壁断面 北東から



1 柱穴配置状況 南東から



2 PIT-37断面 北から



3 PIT-37 北から



4 PIT-110 東から



5 PIT-112 南西から

図版8 1トレンチSD-1



1 北西から



2 北壁断面 南から



3 南壁断面 北から



4 中央/南区間断面南壁 南から



5 SD-70断面 南西から

図版9 1トレンチ土拡



1 SK-16 南東から



2 SK-21土器出土状況 南から



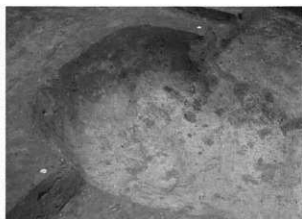
3 SK-23 南東から



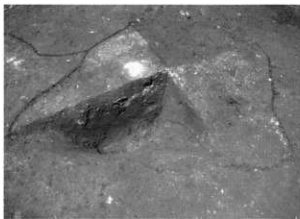
4 SK-23・SD-1断面 北西から



5 SK-61 南東から



6 SK-61完掘 南東



7 SK-65(焼土)南東から



8 SK-93 南から



1 西から



2 南西から



3 焼土断面 北西から



4 焼土上面の土製勾玉出土状況 南西から



1 北から



2 東から



3 焼土 西から



4 焼土 南東から

図版12 2トレンチSD-7



1 南から



2 南西から



3 断面北壁 北東から



4 調査区北壁 西から



5 調査区西壁 南東から



1 SD-7掘削状況 北東から



2 SD-7遺物出土状況 南西から



3 SK-4 西から



4 SK-18 東から



5 SK-70 南から



6 SK-70 南東から



7 PIT-34/35 南西から



8 PIT-72 北東から

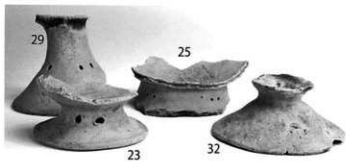
図版14 1 トレンチ出土遺物



1 SH-18(第6図7)



2 SH-18(第6図)



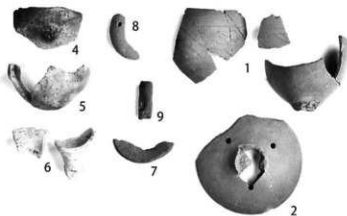
3 SH-18(第6図)



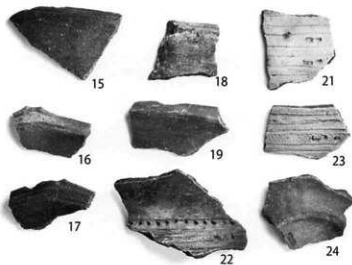
4 SH-73(第8図)



5 SH-73(第8図3)



6 SH-73(第9図)



7 SH-73(第9図)



1 SK-21(第14図)



2 SK-21(第14図)



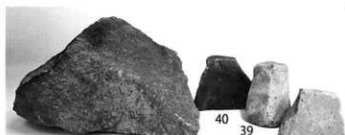
3 SK-21(第14図6)



4 SK-21(第14図7)



5 SK-107(第16図)

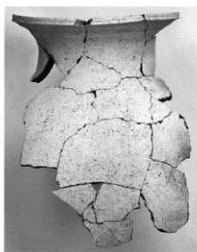


6 SD-1(第12図)

2トレンチ出土遺物(7~9)



7 SD-7(第23図5)

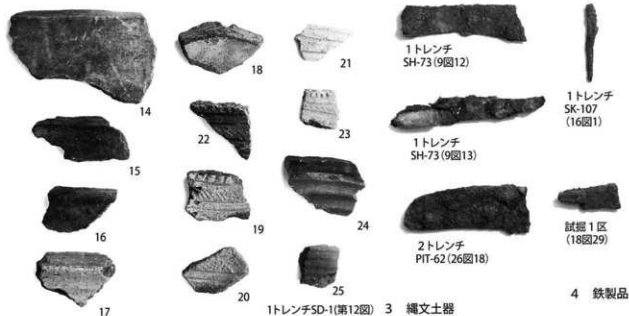
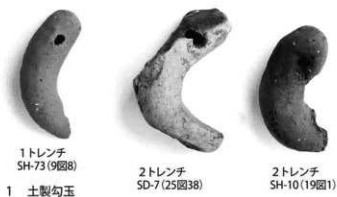


8 SH-10(第19図4)



9 SD-7(第23図14)

図版16 1・2トレンチ出土遺物



調査番号	調査名	取上げ番号	期間	部位	口径 ()は管径	長さ	色調	地土	形成	外周調査 上部からの記入	内周調査 上部からの記入	現況	備考	掲載番号
	1 トレンチ													
6 関 1	SH-18 東平型掘削土	270, 266	表	114-制部	不明	(13.8)	(外) に近い、微細 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ	無	有 (外面全体)	I3-4
6 関 2	SH-18 北平 型掘削土	270	表	114-制部	不明	(14.2)	(外) 粗粒部 (114部) 粗粒部 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	無	有 (外面全体)	I5-1
6 関 3	SH-18 東平	266	表	114-制部	不明	(15.0)	(外) 粗粒 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・タタキ	ナデ・ハケ	無	有 (外面制部)	T3-3
6 関 4	SH-18 東平型掘削土	266	表	114-制部	不明	(16.0)	(外) 粗粒部 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	無	有 (外面全体)	I3-3
6 関 5	ベルト以東掘削土	275, 202	表	114-制部	不明	16.0	(外) に近い、微細 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・タタキ・タタキ掘削	ナデ・ハケ・ナデ	無	有 (外面全体)	I1-2
6 関 6	SH-18 ベルト以東	275	表	114-制部	不明	(18.0)	(外) に近い、微細 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・タタキ・タタキ掘削	ナデ	無	有	T3-2
6 関 6	SH-18 ベルト以東	275	表	114-制部	不明	(18.0)	(外) に近い、微細 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・タタキ	ナデ	無	有	T3-2
6 関 7	SH-18 東掘削土	264	表	114-制部	不明	(18.0)	(外) 粗粒部 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ	ハケ	無	有	I4-2
6 関 8	SH-18 ベルト以東掘削土	275, 355	表	114-制部	不明	17.4	(外) に近い、微細 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ掘削	ナデ・ハケ	無	有	I1-1
6 関 9	SH-18 ベルト上層	202	表	114-制部	不明	(15.0)	(外) に近い、微細 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ後ナデ	無	有	T3-1
6 関 10	SH-18 ベルト上層	202	脚行表	制部	114不明 底層 11.0	不明	(外) 粗粒部 (外層一部粗) (内) 粗粒部	良	良好	ナデ	制部 ナデ 粗粒部 型・ナデ	無	有	T8-1
7 関 1	SH-18 ベルト以東掘削土	266	表	114-制部	不明	(14.0)	(外) 粗粒部 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ後ナデ・タタ キ・ナデ掘削	無	有 (外面全体)	M1-3
7 関 2	SH-18 ベルト以東掘削土	275, 202, 264, 270, 319	表	114-制部	不明	(17.0)	(外) に近い、微細 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・タタキ後ナデ・タタ キ・ナデ掘削	ハケ	無	有	I2-2
7 関 3	SH-18 東平	266, 270	表	114-制部	不明	(16.0)	(外) に近い、微細 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・タタキ後ナデ・タタ キ	ナデ・制部	無	有	T1-1
7 関 4	SH-18 ベルト以東	275	表	114-制部	不明	(18.0)	(外) に近い、微細 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ	ナデ・ハケ後ナデ	無	有	T1-4
7 関 5	SH-18 ベルト以東	275	表	114-制部	不明	(20.0)	(外) に近い、微細 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・制部11・ハケ	ナデ・制部により調整不 明	無	有	T1-3
7 関 6	SH-18 ベルト以東掘削土	275	表	114-制部	不明	(10.0)	(外) 粗粒 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ後ナデ・ハケ	有	有 短少	I2-3
7 関 7	SH-18 ベルト以東掘削土	275	表	114-制部	不明	14.2	(外) 粗粒 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	有	有	I2-1
7 関 8	SH-18 掘削土	264, 319, 202	表	114-制部	不明	(18.0)	(外) 粗粒部 (内) 粗粒部	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	無	有	I4-1
7 関 9	SH-18 ベルト以東掘削土	275	表	114-制部	不明	不明	(外) 粗粒 (内) に近い、微細	良	良好	ナデ	ナデ・ナズリ後ナデ	無	有 (外面全体)	M1-2
7 関 10	SH-18 西平 掘削土	272	表	制部 (破片)	不明	不明	(外) に近い、微細 (内) に近い、微細	良	良好	ハケ	ナデ	無	有 外面に一部ペンガラ付	M1-1

図号	図名	取付番号	部材	口径 () は配元	面積	色調	積土	組成	外周図面 上部からの記入	内周図面 上部からの記入	出展	備考	実測番号
7 図 11	SH-18 ベルト上層	273	山	114・製部	(7.5)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ・ハフ	無	有 目録に明記あり	T1-2
7 図 12	SH-18 ベルト上層	268, 270, 271	山	114・製部	12.1	不明	不良	不良	不明	不明	無	無 小径とも明記により確認不明	M4-1
7 図 13	SH-18 ベルト上層	202	山	114・製部	11. 底層 不明 部部 径 12.0	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ・ハフ	無	無 内面、明記らしき跡がある。	T0-2
7 図 14	SH-18 ベルト上層	270, 275	山	114・製部	(14.4)	不明	良	良好	ナデ・ハフ・ナデ	ナデ	無	有 型(外面)	T2-1
7 図 15	SH-18 ベルト上層	275	山	114・製部	(17.5)	不明	良	良好	ナデ・ハフ・ナデ	ナデ	無	無 型(外面)	M3-2
7 図 16	SH-18 ベルト上層	270	山	114・製部	(16.1)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ	有	有 型(内面) 型(外面) 型(外面)	M2-1
7 図 17	SH-18 ベルト上層	266	山	114・製部	(18.0)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ	有	無	M2-2
7 図 18	SH-18 ベルト上層	202	山	114・製部	(19.0)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・ハフ	ナデ	無	無	T0-1
7 図 19	SH-18 ベルト上層	266, 202	山	114・製部	(20.0)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ・ハフ	有	有 型(外面) 型(内面) 型(内面)	M3-1
7 図 20	SH-18 ベルト上層	275, 278	山	114・製部	(21.0)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ	無	有 型(外面)	M2-3
7 図 21	SH-18 ベルト上層	267	山	114・製部	(24.0)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・交部	ナデ・ハフ	有	有	I3-2
7 図 22	SH-18 ベルト上層	270, 202	山	114・製部	(26.4)	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・交部	ナデ・ハフ	無	無	I3-1
7 図 23	SH-18 ベルト上層	270	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・ハフ	ナデ・ハフ	無	無	I5-2
7 図 24	SH-18 ベルト上層	202	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・ハフ	ナデ・ハフ	無	無	T0-2
7 図 25	SH-18 ベルト上層	270	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・ハフ	ナデ・ハフ	無	無	M4-2
7 図 26	SH-18 ベルト上層	267	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・ハフ	ナデ・ハフ	無	無	T2-2
7 図 27	SH-18 ベルト上層	200, 203	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ・ハフ	ナデ・ハフ	無	無	T0-4
7 図 28	SH-18 ベルト上層	202	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ	無	無	T0-3
7 図 29	SH-18 ベルト上層	202	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ	無	無	T0-3
7 図 30	SH-18 ベルト上層	204, 270	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ・ハフ	有	有 型(外面) 型(内面) 型(内面)	M4-3
7 図 31	SH-18 ベルト上層	275	山	114・製部	不明	不明	良	良好	ナデ・ハフ後ナデ	ナデ	無	無	I5-3

調査号	調査名	取上り番号	部材	口徑 () は元径	長さ	色澤	出土	形成	外周調査 上部からの記入	内周調査 上部からの記入	埋戻	備考	実測番号
7 脚 32	SH-18 ベルト上足	275	部材	部材	12.4	不明	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	ナデ (一部、ナゲ部分残)	部材 ナデ ナデ ナゲ	無	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T3-4
7 脚 33	SH-18	265	部材	部材	8.0	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	無	外周は不明。上下 1cm 位の所に鉄の塊あり。	M3-3
7 脚 35	SH-18 西半周調査上	269	部材	部材	不明	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	無	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	M4-4
9 脚 1	SH-73 ベルト N-E 区	315, 303, 312	部材	部材	15.6	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T7-1
9 脚 2	SH-73 ベルト N-E 区	315	部材	部材	15.6	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T7-2
9 脚 3	SH-73 部材上	302	部材	部材	16.4	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T9
9 脚 4	SH-73 部材上	302	部材	部材	17.8	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T8-2
9 脚 5	SH-73 部材上	315	部材	部材	18.0	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T7-3
9 脚 6	SH-73 部材上	301	部材	部材	18.2	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T8-4
9 脚 7	SH-73 部材上	302	部材	部材	18.4	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T8-3
9 脚 8	SH-73 部材上	301	部材	部材	18.6	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T8-5
9 脚 9	SH-73 部材上	314	部材	部材	18.8	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T4-3
9 脚 10	SH-73 部材上	315, 314, 297	部材	部材	19.0	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T8-1
9 脚 11	SH-73 部材上	315	部材	部材	19.2	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T4-2
9 脚 12	SH-73 部材上	306	部材	部材	19.4	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T10-6
9 脚 13	SH-73 部材上	315	部材	部材	19.6	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T11-1
9 脚 14	SH-73 部材上	298	部材	部材	19.8	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T5-1
9 脚 15	SH-73 部材上	296	部材	部材	20.0	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T6-2
9 脚 16	SH-73 部材上	297	部材	部材	20.2	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T6-3
9 脚 17	SH-73 部材上	315, 306, 303, 312	部材	部材	21.0	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T6
9 脚 18	SH-73 部材上	303	部材	部材	22.0	(外) に近い、炭質 (内) に近い、炭質	良好	良好	ナゲナゲ中点、炭質、ミナギキ	ナゲ ナゲ	有	不明あり、砂型無し。底面少しむ。T3-4	T4-1

図番	図名	図号	図種	図寸	図尺	色画	製法	外観	内観	取付	取付	備考	図番
9 19	SH-73 ベルト N-E-K	315	鉄	1144-底部	3.6	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	ハケ後サテ・サテ	ハケ後サテ・サテ	無	無	110-4
9 19	SH-73 底面	296	鉄	1144-側部	不明	(外) 側面 (内) 側面	良	良好	サテ・ハケ	ハケ後サテ・サテ	有	無	110-3
9 19	SH-73 ベルト N-E-K	315	鉄	1144-底面	17.6	(外) に近い側面 (内) に近い側面	良	良好	サテ・ハケ後サテ・サテ	ハケ	有	無	110-1
9 19	SH-73 ベルト N-E-K	315, 303, 296	鉄	1144-底面	18.6	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	サテ・ハケ・サテ	サテ・ハケ・サテ	有	有	110-2
10 14	SH-73 ベルト N-E-K	296, 315	鉄	1144-側部	30.0	(外) 底面 (内) に近い側面	良	良好	ハケ後サテ	同部 ハケ後サテ・ベ ミガキ 側部 ハケ後サ テ・ミガキ	無	無	110-1
10 14	SH-73 ベルト N-E-K	315	鉄	1144-底面	不明	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	サテ	サテ・ミガキ	無	無	110-4
10 14	SH-73 側面	283, 298, 341, 342, 352	鉄	1144-側部	5.5	(外) に近い側面 (内) 側面	良	良好	ミガキ	サテ・ハケ・ハケ後サ テ	無	無	110-2
10 14	SH-73 側面	298, 302, 303	鉄	1144-側部	11.4	(外) に近い側面 (内) 側面	良	良好	サテ	サテ	無	無	110-1
10 14	SH-73 側面	352	鉄	1144-側部	7.8	(外) に近い側面 (内) 側面	良	良好	ミガキ	ハケ後サテ・サテ	無	無	110-3
10 14	SH-73 側面	315	鉄	1144-側部	5.2	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	サテ	ハケ・サテ	有	有	111-2
10 14	SH-73 側面	290, 298	鉄	1144-側部	5.8	(外) に近い側面 (内) 側面	良	良好	サテ	側面	有	有	111-3
10 14	SH-73 側面	296	鉄	1144-側部	5.8	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	サテ・ハケ後サ テ	サテ・ハケ後サテ	無	無	111-4
10 14	SH-73 側面	314	鉄	1144-側部	5.6	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	サテ	サテ後部側面に係り	無	無	111-5
10 14	SH-73 側面	169	鉄	1144-側部	11.8	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	サテ・ハケ・サテ	サテ	無	無	131-5
10 14	SH-73 側面	171	鉄	1144-側部	12.6	(外) 側面 (内) 側面	良	良好	サテ・ハケ・サテ	サテ・ハケ・サテ	有	有	131-4
10 14	SH-73 側面	304	鉄	1144-側部	不明	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	111-1
10 14	SH-73 側面	315	鉄	1144-側部	不明	(外) に近い側面 (内) に近い側面	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	111-2
10 14	SH-73 側面	303	鉄	1144-側部	不明	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	111-3
10 14	SH-73 側面	301	鉄	1144-側部	不明	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	111-4
10 14	SH-73 側面	299	鉄	1144-側部	不明	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	111-5
10 14	SH-73 側面	308	鉄	1144-側部	不明	(外) 底面 (内) 底面	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	111-6

照番号	登録名	取上げ番号	原種	部位	口置 () は補充	感度	色調	脆土	地味	外品調度 上部からの記入	内品調度 上部からの記入	虫底	備考	実照番号
10月23日	SH-73 SIC	314	深緑(横文)	胴部	不明	不明	(外) にぶ、暗 (内) にぶ、濃暗	良	良好	ミガキ後投(2) 門底・ ミガキ後投(2)	ミガキ後ナデ	無	虫底(内品) 投照7分、虫底は指 内品に2つが1H、虫底は上下で1.3 Cの	M5-1
10月24日	SH-73 暗褐色上・黒区	289	深緑(横文)	胴部・腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ミガキ・門底・投照(4分) 投照(3分)・新投照文(同 に門底)・投照(2分)	ナデ・ミガキ	無	胴部に門底(腹は約10分) 5mm 黒 帯で腹に赤さ、その1cm程にも 2つあり、	M5-3
10月25日	SH-73 暗褐色上・E区	303	深緑(横文)	胴部	不明	不明	(外) にぶ、暗 (内) にぶ、暗	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	無	投照5分、虫底は指が僅かに3 つあり、	M5-2
10月26日	SH-73 暗褐色上・暗褐色上	298	深緑(横文)	腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M5-2
10月28日	SK-100 暗褐色上	251	白	口縁部	不明	不明	(外) にぶ、濃暗 (内) にぶ、濃暗	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	無	虫底	M14-1
10月29日	SK-100 暗褐色上・黒区ST	250	黒区	胴部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	無	虫底	M14-5
10月30日	SK-100 暗褐色上	251	黒区	胴部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-2
10月31日	SK-100 暗褐色上	251	白	口縁部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-3
10月32日	SK-100 暗褐色上	252	深緑(横文)	口縁部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-4
11月1日	PT137 暗褐色上	219	黄	胴部	不明	不明	(外) にぶ、濃暗 (内) にぶ、濃暗	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-5
11月2日	PT110 暗褐色上(黒じり)	157	黄	胴部	不明	不明	(外) にぶ、濃暗 (内) にぶ、濃暗	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-6
11月3日	PT110 暗褐色上(黒じり)	157	白	口縁部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-7
11月4日	PT110 暗褐色上(黒じり)	157	深緑(横文)	口縁部	不明	不明	(外) にぶ、濃暗 (内) にぶ、濃暗	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-8
12月1日	SK-16 暗褐色上	189	白	胴部	不明	不明	(外) にぶ、濃暗 (内) にぶ、濃暗	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-9
13月1日	CS-01 暗褐色上	21	黒(17部)	口縁部・腹部	不明	不明	(外) にぶ、濃暗 (内) にぶ、濃暗	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-10
13月2日	CS-01 暗褐色上	9	黒(17部)	口縁部・腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-11
13月3日	CS-01 暗褐色上	2	黒(17部)	腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-12
13月4日	CS-01 暗褐色上	13	黒(17部)	口縁部・腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-13
13月5日	CS-01 暗褐色上	2	黒(17部)	口縁部・腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-14
13月6日	CS-01 暗褐色上	20	黒(17部)	口縁部・腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-15
13月7日	CS-01 暗褐色上	42	黒	口縁部・腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-16
13月8日	CS-01 暗褐色上	11	黒(17部)	口縁部・腹部	不明	不明	(外) 灰濃 (内) 灰濃	良	良好	ナデ・ナズリ後ナデ・ナデ ナデ	ミガキ	有	虫底	M14-17

通称名	取上げ番号	製法	部位	口探 () は別注	部材	色調	樹土	肌感	外装調査 上部からの記入	内装調査 上部からの記入	現	備考	実測番号
SD-01 C 灰 暗褐色土	11	滑石製(滑石) (口探)		不明	不明	(外) 赤灰 (内) 赤灰			ケズリ	ケズリ	無	11階部分は40%、配子は縦線でな い。重は753.8g	D24-6
SD-01 C 灰 暗褐色土	17	滑石製(滑石) (口探)		不明	不明	(外) 灰 (内) 灰			ケズリ	ケズリ	無	11階部分は40%、上部(内装)、外 側1cm くらいの所に内装あり。1 階している。重は37.3g	D24-7
SD-01 C 灰 暗褐色土	10	滑石製	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好			無		D24-3
SD-01 C 灰 暗褐色土 (下等)	16	滑石製 滑石 下等	11階・上部	(7.2)	不明	(外) 暗褐色・灰白・暗褐色 (内) 灰白	良	良好	滑石		無		D24-4
SD-01 滑石製(滑石)	43	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 滑石 (内) オリーブ色	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	有		D27-5
SD-01 滑石製(滑石)	58	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		M18-1
SD-01 C 5階部・6階部	21	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	有		D27-1
SD-01 C 5階部・6階部	29	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		D27-4
SD-01 C 5階部・6階部	26	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		D27-3
SD-01 C 5階部・6階部	10	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		M18-3
SD-01 C 5階部・6階部	26	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	有		M19-1
SD-01 C 5階部・6階部	6	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	有		T12-4
SD-01 C 5階部・6階部	10	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		M18-2
SD-01 C 5階部・6階部	4	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		T12-1
SD-01 C 5階部・6階部	4	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		T12-2
SD-01 C 5階部・6階部	4	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	有		T12-3
SD-01 C 5階部・6階部	23	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		D27-2
SD-01 C 5階部・6階部	21	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	有		D23-1
SD-01 C 5階部・6階部	26	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	有		D23-6
SD-01 C 5階部・6階部	23	滑石製(滑石)	11階部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	滑石ミガキ	滑石ミガキ	無		D23-5

国番号	通称名	現上野動物園	動物	部位	口徑 () は元型	高さ	色調	動土	成感	外観特徴 上野からの記入	内観特徴 上野からの記入	加底	雄 考	北緯緯度
SK-21	北城部 (比叡) 出雲地土	270. 283	公坪	公坪	不明	不明	(外) 浅灰緑 (内) 緑	良	良好	ナデ、ハゲ熊ナデ	ハゲ熊ナデ、ハゲ・ナデ	有	出展 (内外部)	119-1
SK-21	16 国 4	215	公坪	公坪	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) に白・灰緑	良	良好	ハゲ熊ナデ・草丸・ハゲ・ナデ	外観内面ナデ・草丸・ナデ・ハゲ	有	出展 (内外部) 草丸・二孔 朝陽4/6/6、 5つは江通、3つ太江通、孔の穴さ は多少ずれている。	119-2
SK-21	16 国 5	215	動物林 (コップ形)	11 国・北城部	11 国 (7.8)、 北城 (9.0)	11.1	(外) に白・灰緑 (内) に白・灰緑	良	不良	ハゲ熊ナデ・ナデ・草丸・ナデ	動物 ハゲ熊ナデ・動物 のため不明 動物 ナ デ・ヨコナデ	有	出展 (動物外部) 4 ~ 5cm 頭幅で へうきき (ハの字) がうつ、その周 りに草丸 (二孔一組、三方向)	M13-3
SK-21	16 国 8	212	出雲 (横文)	1 横部	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) 浅灰緑	良	良好	比腹 (2 本)・ナデ	ナデ	無	無	M13-4
SK-03	16 国 9	180	横文	1 横	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) 緑	良	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	内外とも剥離している	113-2
SK-04	16 国 11	183	深林 (横文)	1 横	不明	不明	(外) に白・灰 (内) 黒	良	良好	ナデ熊ナデ・灰	ナデ	無	内側にも剥離したの跡あり。	113-3
SK-12	16 国 12	187	深林 (横文)	1 横	不明	不明	(外) に白・灰 (内) 黒	良	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	113-4
SK-19	16 国 13	206	深林 (横文)	1 横	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) に白・灰緑	良	良好	熊皮 2 本 (2 個 1 羽の刺 突)・ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	出展 (外) 1 横 (内) 全体	114-2
SK-19	16 国 14	210	深林 (横文)	1 横	不明	不明	(外) 灰緑 (内) 灰緑	良	良好	熊皮 2 本・刺突 (2 個 1 羽) ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	114-3
SK-19	16 国 15	210	深林 (横文)	1 横	不明	不明	(外) に白・灰 (内) 黒	良	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	出展 (内面全体)	114-4
SK-18 ~ 19	16 国 16	211	横文	動物	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) に白・灰緑	良	良好	ヘラミガキ・額・1 羽の刺突 (2 本)・熊皮 1 羽	ヘラミガキ・ナデ	有	出展 (内外部)	114-5
SK-19	16 国 17	206	動物付横	動物	1 横・不明、 北城 (11.2)	不明	(外) に白・灰緑 (内) に白・灰緑	良	良好	ハゲ熊ナデ	ハゲ熊ナデ・砂岩	無	無	114-1
SK-39	16 国 18	221	小型横	1 横部	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) に白・灰緑	良	良好	ナデ	ナデ・ハゲ	無	無	121-3
SK-39	16 国 19	221	垂	動物	不明	不明	(外) 灰緑 (内) に白・灰緑	良	良好	比腹・動物熊皮状・ハゲ	ハゲ	有	無	121-4
SK-39	16 国 20	220	横	1 横部	不明	不明	(外) 黒 (内) 灰緑	良	良好	ナデ	ナデ・ハゲ?	無	無	121-2
SK-61	16 国 21	228	垂	1 横部	不明	不明	(外) 黒 (内) 灰緑	良	良好	ナデ・ハゲ熊ナデ	ナデ・ハゲ・ナデ	無	無	121-6
SK-61	16 国 22	228	垂 (1 横部)	1 横部	不明	不明	(外) 黒 (内) 灰緑	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	121-5
SK-45	16 国 23	235	公坪	公坪	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) 灰緑	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	122-7
SK-65	16 国 24	235	垂	動物	不明	不明	(外) 灰緑 (内) 灰緑	良	良好	ハゲ熊皮熊皮状文	ハゲ	無	無	122-6
SK-62	16 国 25	231	深林 (横文)	1 横部	不明	不明	(外) 灰緑 (内) 灰緑	良	良好	熊皮 (2 本)・熊皮 1 羽・ ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	出展 (内外部)	122-3
SK-62	16 国 26	231	深林 (横文)	1 横部	不明	不明	(外) に白・灰 (内) に白・灰	良	良好	熊皮 2 本 (刺突 1 つ) ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	出展 (内外部)	122-4
SK-62	16 国 27	235	横 (古式)	北城・動物	不明	不明	(外) に白・灰緑 (内) 灰緑	良	良好	ナデ・ハゲ	ナデ・ヘラミガキ	有	出展 (内外部) 雄 (外部)	122-1

映画番号	題名	取上げ番号	期間	部位	口徑 () は変元	形式	色調	脚士	地蔵	外画脚 上巻からの記入	内画脚 下巻からの記入	出展	備 考	実録番号
2 トレンチ														
21 14 02	SH-10 暗茶色上	482・522・534	黒	114・脚部	(17.0)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) に近い、濃緑	良	良好	ナチ・タタキ・ナチ	ハケ・ナチ	黒	有 履 (外画全体)	M20-1
21 14 03	SH-10 暗茶色上	482	黒	114・脚部	(17.8)	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ・ヨコナズリ後ミガキ・ タタキ	ナチ・ハケ後ナチ・ナチ	黒	有 履 (外画)	M20-2
21 14 04	SH-10 暗茶色上	482・521・ 522・534	黒	114・脚部	(16.6)	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	不良	ナチ・ハケ後ナチ・ハケ	ナチ・濃緑により濃緑不 明	黒	有 履 (外画)	M21-1
21 14 05	SH-10 暗茶色上	482	黒	脚部	114不明 脚部不明 (11.7)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) 濃緑	良	不良	ハケ・ナチ	ハケ・濃緑により濃緑不 明	黒	有 履 (外画)	M20-3
21 14 06	SH-10 暗茶色上	483	黒	114(脚部)	114不明 脚部不明 (7.9)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M21-2
22 14 01	SH-17 暗茶色上 (11上並じり)	511	黒	114部	(15.7)	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M22-3
22 14 02	SH-17 暗茶色上 (11上並じり)	508	黒	脚部	114不明 脚部不明 (13.3)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) 濃緑	良	不良	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M22-1
22 14 03	SH-17 暗茶色上 (11上並じり)	511	黒	脚部	不明	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M22-5
22 14 04	SH-17 暗茶色上 (11上並じり)	486	黒	114・脚部	不明	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M22-2
23 14 01	SK-18 暗茶色上	487	黒	114部	(10.9)	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M24-3
23 14 02	SK-18 暗茶色上	488	黒	114部	(20.5)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) に近い、濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M23-2
23 14 03	SK-18 暗茶色上	489	黒	114・脚部	(33.6)	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M23-1
23 14 04	SK-18 暗茶色上	487	黒	114・脚部	不明	不明	(外) に近い、濃緑 (内) に近い、濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M24-1
23 14 05	SK-18 暗茶色上	487	黒	脚部	114不明 脚部不明 (15.2)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) に近い、濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M24-2
23 14 06	SK-18 暗茶色上	487	黒	114部	(15.9)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M24-5
23 14 07	SK-18 暗茶色上	487	黒	114・脚部	(13.5)	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M24-4
23 14 08	SK-18 暗茶色上	488	黒	114部	(14.7)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) に近い、濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M23-3
23 14 09	SK-18 暗茶色上	488	黒	脚部	不明	不明	(外) 濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M23-4
23 14 10	SK-20付足履用中・暗 茶色上	529	黒	114・脚部	不明	不明	(外) に近い、濃緑 (内) に近い、濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M25-1
23 14 11	SK-44 暗茶色上	493	黒	114・脚部	(14.8)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) に近い、濃緑	良	不良	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M25-2
23 14 13	SK-71 暗茶色上	498	黒	脚部	114不明 脚部不明 (18.2)	不明	(外) に近い、濃緑 (内) 濃緑	良	良好	ナチ	ナチ	黒	有 履 (外画)	M26-4

調査番号	遺体名	取上げ番号	形態	部位	口蓋 () は複元	頭部	色調	動土	地味	外証諸病	内証諸病	加圧	備考	実証番号
23 回 14	54-09 黒髪色上	499	頭	右手	不明	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良好	ケズリ後ナデ	ヘラケズリ	無	外函全体に赤い痕料 (ペンガリ)	M28-1
23 回 15	54-09 黒髪色上	499	頭	口蓋部	(16.1)	不明	(外) 良調 (内) 良調	良	不良	押痕により顕微不明	ナデ	無		M28-2
25 回 01	50-07 上・中尉	372	頭	口蓋・咽部	(11.7)	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良好	ナデ・ハグ後ナデ・ハグ	ナデ	無	痕 (外函)	138-5
25 回 02	50-07 黒サフトレンチ	361	頭	口蓋・咽部	(13.9)	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良好	ナデ・ハグ後ナデ・ハグ	ナデ・ハグ	無	痕 (外函)	137-2
25 回 03	50-07 黒サフトレンチ	361	頭	口蓋・咽部	(14.0)	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良好	ナデ・ハグ・タタキ後ナデ	ナデ・ハグ	無		137-1
25 回 04	50-07 上・中尉	373	頭	口蓋	(17.0)	不明	(外) 良調 (内) に赤い痕	良	良好	ナデ・ハグ・タタキ	ハグ	有	黒髪 (外函)	138-8
25 回 05	50-07 上・中尉	365	頭	口蓋・咽部	13.6	不明	(外) 良調 (内) 良調	良	良好	ナデ・ハグ後ナデ・タタキ	ナデ・ハグ後ナデ・ハグ後ナデ・ナデ	無	外函の黒部上面に口蓋痕	138-1
25 回 06	50-07 黒髪	370	頭	咽部	口蓋不明、 底唇 (11.0)	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良好	ナデ	砂型・ナデ	有	黒髪 (外函)	138-2
25 回 07	50-07	370	頭	咽部	口蓋不明、 底唇 (12.0)	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良好	ナデ	砂型・ナデ	有	黒髪 (外函)	138-1
25 回 08	50-07 黒サフトレンチ	361	頭	咽部	(10.0)	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良好	ハグ・ナデ	ハグ	有	黒髪 (外函)	137-3
25 回 09	50-07 上尉	364・365	頭	咽部	11.2	不明	(外) 良調 (内) 明調・良	良	良好	ハグ・ナデ	ナデ・ハグ	有	黒髪 (外函)	137-5
25 回 10	50-07	362	頭	咽部	12.5	不明	(外) 明調 (内) 明調	良	良好	ハグ後ナデ・ハグ・ナデ	ナデ	有	黒髪 (外函)	137-4
25 回 11	50-07	370	頭	口蓋・咽部	(15.3)	不明	(外) 良調 (内) 良調	良	良好	ナデ・ハグ・タタキ後ハグ	ナデ・ハグ・ナデ	無		138-3
25 回 12	50-07 上・中尉	372	頭	口蓋・咽部	(16.0)	不明	(外) 良調 (内) 良調	良	良好	ナデ・咽部さへ	ナデ・ハグ・咽部により 顕微不明・ハグ・ナデ	無		138-3
25 回 13	50-07 上・中尉	372	頭	口蓋・咽部	(17.8)	不明	(外) に赤い痕 (内) 良調	良	良好	ナデ・ハグ・ハグ後ヘラケ 痕	ナデ・ハグ後ナデ・ハグ・押痕 により顕微不明	無		138-2
25 回 14	50-07 中尉	371	頭	口蓋・咽部	15.8	不明	(外) 良 (内) 明調	良	良	ハグ後ナデ・咽部さへ・ナ デ・ハグ・押痕により顕微 不明	ナデ・ハグ・咽部 ナデ・ハグ・ナデ	有	黒髪 (外函) 痕 (外函) はばね状 (底 部のみ欠損)	T15-1
25 回 15	50-07	362	頭	口蓋部	不明	不明	(外) に赤い痕 (内) 明調	良	良	咽部さへ・ハグ後ナデ	ナデ・咽部	無	痕 (外函)	T16-2
25 回 16	50-07	370	頭	口蓋部	不明	不明	(外) 良 (内) 良	良	良	咽部さへ・ナデ	ナデ	無	痕 (外函)	T16-6
25 回 17	50-07 上・中尉	372	頭	口蓋部	不明	不明	(外) 良調 (内) に赤い痕	良	良好	ナデ・ハグ後ナデ	ナデ後顕微痕	無		138-4
25 回 18	50-07	368	頭	咽部	不明	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良	顕微痕状・ハグ	ナデ	無		T16-4
25 回 19	50-07	368	頭	咽部	不明	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良	顕微痕状・顕微痕状	ヘラケズリ	無		T16-5
25 回 20	50-07	362	小顎丸底出	咽部	口蓋不明、 内唇 (6.0)	不明	(外) に赤い痕 (内) に赤い痕	良	良	ナデ	ナデ	無	顕微に例点	T16-1

調査番号	調査名	取上げ番号	器種	部位	口径 (mm)	材質	触土	焼成	外周調査 上部からの記入	内周調査 上部からの記入	出度	備 考	調査番号
25 河 21	SD-07 上層	364	小形鉢	口縁・胴部	4.0	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良	ナデ	ケズリ後ナデ・ナデ	無		T18-2
25 河 22	SD-07	363	小形丸底鉢	口縁・胴部	(11.4)	(外) 灰殻 (内) 灰殻	良	良	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ後ナデ	無		T16-3
25 河 23	SD-07 上・中層	373	鉢	口縁・胴部	(10.0)	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良	指調整	指調整	有	型底 (外底)	T17-4
25 河 24	SD-07	370	鉢	口縁・底盤	(12.6)	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良	ナデ	ナデ・ハケ・ヘラミガキ	有	型底 (外底) 外面はほとんど調整してない。(有) などである程度	T17-2
25 河 25	SD-07 上・中層	372	鉢	口縁・底盤	(12.8)	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ	ナデ・ハケ・ナデ	無		T17-3
25 河 26	SD-07	368	鉢	口縁・胴部	(10.9)	(外) 灰殻 (内) にび・灰殻	良	良	ケズリ後ナデ・ミガキ後ナデ	ケズリ後ナデ・ハケ後ナデ	無		T17-1
25 河 27	SD-07	370	鉢	口縁・胴部	不明	(外) 灰殻 (内) 灰殻	良	良好	ヘラミガキ	杯部 調整により調整不明 胴部 灰殻 灰殻	無		M26-5
25 河 28	SD-07	370	鉢	口縁・胴部	不明	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良好	ナデ	杯部 ヘラミガキ 胴部	無		M26-4
25 河 29	SD-07 型底色灰質土	363	鉢	口縁・胴部	不明	(外) 灰殻 (内) 灰殻	良	良好	ナデ・ヘラミガキ	杯部 ヘラミガキ 胴部	無		M26-2
25 河 30	SD-07	370	鉢	口縁・胴部	不明	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良好	ナデ	杯部 ヘラミガキ 胴部	無		M26-6
25 河 31	SD-07	370	鉢	口縁・胴部	口縁不明、 底盤 (14.3)	(外) 灰殻・調整 (内) 灰殻・調整	良	良好	ナデ・灰丸・ハケ後ナデ	杯部 ヘラミガキ 胴部	無		M26-3
25 河 32	SD-07 上・中層	372	鉢	胴部	口縁不明、 底盤 (14.3)	(外) 灰殻 (内) 灰殻	良	良好	ナデ	ナデ	無		M27-1
25 河 33	SD-07 上・中層	372	鉢	口縁・胴部	(14.5)	(外) 灰殻 (内) 灰殻	良	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無		M27-2
25 河 34	SD-07 土・中層	361	鉢	口縁・胴部	(25.8)	(外) 灰殻 (内) 灰殻	良	良好	ナデ	ナデ	無		M28-1
25 河 35	SD-07 土・中層	365	ミニチュア 上層	胴部	口縁不明、 内径 (5.4)	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良	ナデ	ナデ	無		T18-3
25 河 36	SD-07	370	ミニチュア 上層 (5.4)	口縁部	(3.6)	(外) にび・灰殻 (内) にび・灰殻	良	良	ハケ・ナデ・調整さへ	ナデ後調整	無	1 調整が少々進む	T18-5
25 河 37	SD-07	368	ミニチュア 上層 (5.4)	口縁・底盤	(26.0)	(外) 灰殻 (内) 灰殻	良	良	指調整	指調整	無	口縁部が少々進む	T18-4
25 河 38	SD-07 上・中層	372	縄文	口縁部	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	神文	ナデ	無		I39-4
25 河 39	SD-07	372	縄文	口縁部	不明	(外) 灰 (内) にび・灰丸	良	良好	神文 (2本)・ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	型底 (外底)	I39-3
25 河 40	SD-07 上・中層	372	縄文	口縁部	不明	(外) にび・灰 (内) 灰丸	良	良好	ヘラ調整	ヘラミガキ	有	型底 (内底)	I39-2
25 河 41	SD-07 上・中層	364	縄文	口縁部	不明	(外) にび・灰殻 (内) 灰殻	良	良好	神文 (2本)・ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	型底 (内底)	I39-1
25 河 42	SD-07 上層	370	縄文	口縁部	不明	(外) にび・灰 (内) にび・灰	良	良好	神文 (2本)・ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	型底 (内底)	I38-4

原書名	題名	著者	種別	口徑	題名	色調	地上	地蔵	外部諸書	内部諸書	写真	備考	文庫番号
25 14 44	SD-07	上・中	372	不明	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良好	ヘラミガキ・押印文・前白	ヘラミガキ	無		139-6
25 14 45	SD-07	上	374	(12.0)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	不良	ナデ	ナデ	無		139-8
25 14 50	SD-07	上	375	(17.4)	不明	(※) に点入 (※) に点入	良	良好	ナデヘラミガキ	ナデヘラミガキ	有	虫痕 (内外)	139-7
25 14 01	PT11	上	389	(11.1)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデヘラミガキ・ナデ・ナデ	ナデヘラミガキ	無		M29-1
25 14 02	PT14	上	392	(22.3)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	不良	ナデ	ナデ	無		M29-2
25 14 03	PT17	上	399	(27.8)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	有	虫痕 (外)	M29-3
25 14 04	PT23	上	403	(14.8)	不明	(※) に点入 (※) に点入	良	良	ナデ	ナデ	無		M29-4
25 14 05	PT35	上	415	(20.5)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	無		M29-5
25 14 06	PT35	上	414	(18.6)	不明	(※) に点入 (※) に点入	良	良	ナデ	ナデ	無		M29-6
25 14 07	PT36	上	416	(10.5)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	無		M30-1
25 14 08	PT36	上	416	(22.5)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	有	虫痕 (外)	M30-2
25 14 09	PT38	上	418	(35.0)	不明	(※) に点入 (※) に点入	良	不良	ナデ	ナデ	無		M30-3
25 14 10	PT48	上	427	不明	不明	(※) 縦 (※) 横	良	不良	ナデ	ナデ	無		M30-5
25 14 12	PT52	上	433	(13.5)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	無		M31-1
25 14 13	PT53	上	434	不明	不明	(※) に点入 (※) に点入	良	良	ナデ	ナデ	無		M31-2
25 14 14	PT53	上	434	不明	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	無		M31-3
25 14 16	PT57	上	435	(19.0)	不明	(※) に点入 (※) に点入	良	良	ナデ	ナデ	無		M31-4
25 14 17	PT59	上	436	(13.2)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	無		M31-6
25 14 19	PT63	上	441	不明	不明	(※) に点入 (※) に点入	良	不良	ナデ	ナデ	有	虫痕 (外)	M32-2
25 14 20	PT72	上	448	不明	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	無		M32-3
25 14 21	PT76	上	453	(7.4)	不明	(※) 縦 (※) 横	良	良	ナデ	ナデ	無		M32-4

調査号	調査名	観上り番号	器械	部位	口径 () は元元	器銘	色調	筋上	地蔵	外装調整 上部からの記入	内装調整 上部からの記入	現度	備 考	欠番番号
26 同 22	PTB6	463	巻行	底部	11径×9H 底径 (13.4)	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) 良緑褐色	良	良	ハケ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	無		M32-5
26 同 23	PTB4	469	巻	11軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良	ヨコナデ	ヨコナデ	無		M33-2
26 同 24	PTB4	469	巻	11軸部	不明	不明	(外) 良緑褐色 (内) 良緑褐色	良	不良	押縮により調整不明・磨面 被食ナデ	ハケ後ナデ	無		M33-1
26 同 25	PTB9	474	巻	11軸・軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) 良緑褐色	良	良	ナデ・ヨコナデ・ハケ後ナ デ・ケズリ後ナデ	ヨコナデ・ハケ	無		M33-3
27 同 01	検出中	537	観文	11軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良好	押縮文 (2本)・ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ	有	型度 (内外側) 軸突文 1	144-5
27 同 02	検出中	355	浮鉢 (観文)	11軸部	不明	不明	(外) 観文 (内) 観文	良	良好	押縮文 (3本)・ナデ後ミ ガキ	ヘラミガキ	無		135-2
27 同 03	南内検出中	518	浮鉢 (観文)	11軸部	不明	不明	(外) 良緑褐色 (内) 良緑褐色	良	良	ミガキ	ミガキ	有	型度 (外側)	T19-1
27 同 04	検出中	355	浮鉢 (観文)	11軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良好	押縮文の間に押縮文 (2 本)・ナデ	ヘラミガキ	無	有	135-1
27 同 05	検出中	534	浮鉢 (観文)	11軸部	不明	不明	(外) 観文 (内) 観文	良	良	ミガキ	ミガキ	無		T19-3
27 同 06	検出中	537	観文	11軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) 良緑褐色	良	良好	傾目・ナデ	ナデ	有	型度 (外側)	144-6
27 同 07	検出中	355	観文	11軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良好	押縮文 (2本)・ナデ後ミ ガキ	ヘラミガキ	無		135-3
27 同 08	検出中	534	浮鉢 (観文)	11軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良	ミガキ (間に押縮文 3本)	ナデ	無		T19-4
27 同 09	検出中	355	観文	11軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良好	押縮文・押縮文 (2本)・ 傾目後ミガキ	ヘラミガキ	無	有	135-4
27 同 10	検出中	534	巻	11軸・軸部	不明	不明	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ナデ	無		142-5
27 同 17	検出中	355, 534	巻	11軸・軸部	不明	不明	(外) 良緑褐色・粉 (内) にぶい・黄褐色・粉	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	有	型度 (内側) 型 (内外側)	141-3
27 同 18	検出中	355	巻	11軸・軸部	不明	不明	(外) にぶい・黄褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ	ハケ	有	型度 (内外側) 型 (外側)	134-1
27 同 19	南内付足検出中	519	巻	底部	11径×不明 底径 (5.7)	不明	(外) 良緑褐色 (内) 良緑褐色	良	良好	ハケ・ナデ	ハケ	有	型度 (外側)	142-3
27 同 20	南内検出 (サブトレ)	515	巻	底部	11径×不明 底径 (12.0)	不明	(外) 粉 (内) 粉	良	良好	ハケ後ナデ・ナデ	ナデ	有	型度 (内側) 型 (内外側)	142-2
27 同 21	検出中	534	20不	底部	11径×不明 底径 (14.6)	不明	(外) 粉 (内) 粉	良	良好	ナデ後ヘラミガキ・ナデ	ナデ	有	型度 (外側) 算孔 1つあり	143-3
27 同 22	検出中	536	巻	11軸部	不明	不明	(外) 黄緑褐色 (内) 良緑褐色	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ	有	型度 (外側)	141-2
27 同 23	検出中	355	巻	11軸・軸部	不明	不明	(外) 黄緑褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良好	傾目・ナデ	ハケ後ナデ・ハケ	無	外品黄色顔料 (ペンダラ?)	133-1
27 同 24	検出中	523	巻	11軸・軸部	不明	不明	(外) 良緑褐色 (内) にぶい・黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ 後ヘラミガキ	ナデ・ハケ・ナデ	有	型度 (外側) 型 (外側)	141-1

調査号	遺構名	出土層番号	階層	部位	口径 () は取元	部高	色調	出土	焼成	外周調査 上部からの記入	内周調査 上部からの記入	照度	備 考	実測番号
27 Ⅳ 25	検出中	355	層行	側部	不明	不明	(外) 浅黄褐色 (内) に近い、黄褐色	良	良好	相対無	ハケ・ヘラ調査・ハケ	無	外周は黒い。内周は 1 層に調査	134-2
27 Ⅳ 26	検出中	535	ジョギキ上 部	肥土	不明	不明	(外) に近い、黄褐色 (内) 相	良	良好	ハケ後ナデ	ハケ	無		143-5
27 Ⅳ 27	検出中	550	ミニチュア 土層	1 Ⅷ 4	(3.8)	不明	(外) に近い、黄褐色 (内) に近い、黄褐色	良	良好	ハケ後ナデ	ナデ	無		134-4
27 Ⅳ 28	検出中	550	ミニチュア 土層	側部・底部	1 Ⅷ 4 不明、 底径 2.3	不明	(外) に近い、黄褐色 (内) に近い、黄褐色	良	良好	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ・ハケ	有		134-5
27 Ⅳ 29	検出中・南西部	515	奥 (占代)	1 Ⅷ 4・側部	(15.0)	不明	(外) 浅黄褐色 (内) 相	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無		142-1
27 Ⅳ 30	検出中	534	奥 (占代)	1 Ⅷ 4・側部	(18.0)	不明	(外) 相 (内) 相	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無		141-4
27 Ⅳ 31	検出中	355	奥 (占代)	1 Ⅷ 4・側部	(18.4)	不明	(外) に近い、黄褐色・相 (内) に近い、黄褐色	良	良好	ナデ・ヘラ調査後ナデ	ナデ・ケズリ	有	里周 (外周)	133-2
27 Ⅳ 32	検出中・南西部	517	奥 (占代)	1 Ⅷ 4・側部	(20.0)	不明	(外) 相 (内) 相	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無		142-4
27 Ⅳ 33	検出中	534	堀		不明	不明	(外) に近い、黄褐色 (内) に近い、黄褐色	良	良好	ケズリ後ナデ	ナデ	有	里周 (中外周) 底 (外周)	143-4
27 Ⅳ 34	検出中・南西部	516	堀	側部 (肥土)	不明	不明	(外) に近い、黄褐色 (内) に近い、黄褐色	良	良好	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ	有	里周 (外周) 底 (外周)	143-1
27 Ⅳ 35	検出中	355	土層部坪 (築込部)	底部	1 Ⅷ 4 不明、 底径 (8.0)	不明	(外) 暗灰黄 (内) 暗灰黄	良	良好	ナデナデ	側部、側部共にナデナデ	無	側部が内周に自然動	135-6
27 Ⅳ 36	検出中	355	堀 (築込部)	底部	1 Ⅷ 4 不明、 底径 (13.0)	不明	(外) 灰サリ・ブ (内) 灰	良	良好	ナデ	ナデ	無		135-5
27 Ⅳ 37	検出中・南西部	517	堀 (占代)	1 Ⅷ 4・底部	(16.6)	2.1	(外) 灰黄褐色 (内) に近い、黄褐色	良	良好	ナデ後ヘラミガキ	ナデ後ヘラミガキ	有	里周 (中外周)	143-2
27 Ⅳ 38	検出中	355	堀 (築込部)	1 Ⅷ 4・底部	(15.6)	3.8	(外) 相 (内) 相	良	良好	ナデ後ヘラミガキ	ナデ後ヘラミガキ	有	里周 (中外周)	135-7
27 Ⅳ 39	検出中	550	溝行掘行掘	1 Ⅷ 4 部	(22.0)	不明	(外) 相灰 (内) 相灰			ケズリ	ケズリ	有	肥土は黒泥できい、中周縁に里周、 底径 78.3 R	134-3

図版 番号	追構名	取上 番号	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	備 考	実測 番号
----------	-----	----------	-------	----	---	----	----	-----	----------

1 トレンチ石器

(単位は cm、g)

10 図 16	SH-73 E 区	298	砥石 ?	4.3	2.0	1.6	23.0	使用痕なし	I12-2
10 図 27	SH-73 S 区	314	石鏃	6.6	6.6	1.6	65.5		I12-1
12 図 02	SD-20 暗褐色土	45	剥片石器	6.0	2.0	1.1	8.0	黒曜石	I28-6
13 図 26	SD-01 N-C 間ベルト	9	石核	4.9	3.8	1.7	33.0	サヌカイト	T12-5
13 図 27	SD-01 C 区	12	黒曜石	2.2	2.8	1.7	9.5		I25-5
13 図 28	SD-01 暗褐色土 北壁	58	黒曜石	2.3	2.5	1.0	5.2		T12-6
13 図 37	SD-02 北 ST	40	石斧 (太型 始刃)	不明	不明	不明	107.8		I25-3
13 図 38	SD-01 C 区 暗褐色土	11	磨製石斧	4.5	3.5	1.7	42.7		I25-4
13 図 39	SD-01 C 区 暗褐色土	10	砥石	7.9	5.5	5.5	301.8	四面に使用痕	I25-1
13 図 40	SD-01 北 ST	40	砥石	11.2	9.3	3.5	296.5	四面に使用痕	I25-2
13 図 41	SD-01 N-C 間ベルト	9	滑石製模造 品	3.0	1.9	0.7	4.2	子持勾玉。穴のうち1つは未貫通で1.5mm程度窪んだ状態	M17-5
13 図 42	SD-01 C 区 底近く	17	凝灰岩	21.1	18.1	16.8	5.7	二面にベンガラ付着	I26-1
13 図 43	SD-01 S 区	27	凝灰岩	6.2	8.2	3.5	240.0	三面にベンガラ付着 石櫛材か	M17-4
16 図 06	SK-21	354	磨石 (クド 石か)	129.5	8.9	5.1	867.8	被熱による変色か	I20-2
16 図 07	SK-21	354	くぼみ石	7.6	6.4	4.4	273.0	一部黒変	I20-1
16 図 10	SK-03 暗褐色土	178	打製石斧	9.6	5.5	1.3	95.3		I13-1
16 図 34	SD-82 暗褐色土	56	石鏃	2.0	1.5	0.4	1.0	サヌカイト	I28-7
17 図 03	SK-107 埋土中	256	石櫛材か	14.7	15.7	3.8	1080.0	一部ベンガラ付着	m1-2
17 図 04	SK-107 埋土中	256	石櫛材か	28.8	20.5	0.5	3400.0		m1-1
17 図 08	SK-107 暗褐色土	257	石鏃	8.8	7.3	1.8	0.2	砂岩 ?	T11-5
18 図 23	SK-16 暗褐色土 南東	194	石鏃	3.9	2.7	0.7	5.2	安山岩	I13-6
7 図 34	SK-18 黒褐色土	198	砥石	5.4	3.3	1.2	26.8		T9-4

1 トレンチ鉄器

10 図 14	SH-73	308	釘状鉄器	4.9	0.3	0.5	2.5	頭部欠損	M6-4
10 図 15	SH-73 暗褐色土	295	刀子	7.7	2.3	0.3	8.5		M6-3
17 図 02	SK-107	258	刀子	9.9	6.6	1.8	16.0	柄に木質残存	M15-1
18 図 29	試掘 1 区 検出中		刀子	3.7	1.6	0.5	5.2	柄に木質残存	T1- m

図版 番号	遺構名	取上 番号	種類・部位	長さ	幅	厚さ	重量	備 考	実測 番号
----------	-----	----------	-------	----	---	----	----	-----	----------

1 トレンチ土製品

10 図 10	SH-73 S区一括	302	土製勾玉	3.9	1.1	1.2	6.0	裏面は全体的に割れる	I11-6
10 図 11	SH-73 N区	300	土製品	不明	1.1	1.1	4.2	棒状の破片	I11-7

2 トレンチ石器

27 図 13	検出中	548	石旗	1.4	1.0	0.4	0.2		I33-4
27 図 14	検出中	548	石旗	2.1	1.9	0.4	1.0		I33-5
27 図 39	検出中	550	滑石製石鯛				78.3	復元口径 (22.0)	I34-3
25 図 45	SD-07 上・中層	373	磨石	9.9	5.2	4.3	380.3		I40-1
25 図 48	SD-07 上層	364	打製石斧	10.7	5.2	0.8	66.5	緑色片岩の未製品	I40-2
25 図 47	SD-07	370	打製石斧	10.2	4.6	0.9	56.5		I40-3
25 図 46	SD-07	370	打製石斧	5.3	4.6	1.2	48.2		I40-4
27 図 10	ラベル無し	541	打製石斧	9.2	5.2	1.1	68.2		I44-1
27 図 11	検出中	543	打製石斧	9.5	5.7	1.3	115.5		I44-2
27 図 12	検出中	543		4.4	3.6	0.8	14.5		I44-3
27 図 15	検出中	540	石錐	3.4	1.4	0.5	1.7		I44-4
23 図 12	SK-70	496	敲き石	12.8	9.6	5.5	854.0		M28-3
26 図 11	PIT50	431	打製石斧	10.1	4.9	1.1	65.0	緑色片岩	M30-4
26 図 15	PIT57	435	打製石斧	10.5	4.8	1.4	82.5	緑色片岩	M31-5

2 トレンチ鉄器

26 図 18	PIT62	439	鏃	8.0	2.6	0.6	31.7		M32-1
---------	-------	-----	---	-----	-----	-----	------	--	-------

2 トレンチ土製品

27 図 40	検出中	355	紡錘車	5.9	6.1	1.8	69.5	完形	I33-3
21 図 01	SH-10	542	土製勾玉	4.0	1.6	1.6	10.5		M21-3
25 図 38	SD-07	362	土製勾玉	4.4	2.0	1.4	15.0		T18-1

報告書抄録

ふりがな	かとうだ いせき
書名	方保田遺跡
副書名	水道事業による方保田配水池整備事業に伴う 方保田遺跡発掘調査（第1次調査）報告書
シリーズ名	山鹿市文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	宮崎 歩
編集機関	山鹿市教育委員会
所在地	〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿156-3（文化課） 電話0968-43-1691
発行年月日	2014年3月31日

所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
方保田 (1次)	熊本県山鹿市 方保田字木下 2389・2390-1	43208 -167	33° 0′ 6″	130° 42′ 36″	2012/5/21～ 2012/8/17	350㎡	水道事業 配水池整備

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
方保田 第1次	集落	弥生後期後半～ 古墳初頭	住居5 土坑 埋葬主体部 溝	土器（弥生土器、古式土師器、須恵器、 土師器）332.6kg 鉄製品、石製品

要約

水道事業に伴う発掘調査。周辺は昭和43年圃場整備の際に削平・遺物採取。調査区全体で弥生後期から古墳初頭を中心とする遺構・遺物（土器、鉄器）が出土。このほか縄文後晩期（磨消縄文土器、石鏃、石鏃、石錘、石錐）、古代～中世遺物（土師器、須恵器、青白磁、黒色土器）も少量出土。

1 トレンチ（配水タンク予定地）200㎡。弥生後期後半～古墳初頭の竪穴住居3、埋葬施設主体部、廃棄土坑。掘立柱建物の一部（古代か）、中世の溝。

2 トレンチ（機械棟予定地）150㎡。弥生後期の竪穴住居2、溝1。掘立柱建物1（中世か）。

方保田遺跡は菊池川中流域の弥生時代拠点集落である方保田東原遺跡と近接し、周辺の小規模な同時期集落遺跡とともに有機的関連を想定できるが、調査事例に乏しく具体的内容は不明である。

山鹿市文化財調査書報告第 15 集

方保田遺跡

発行 山鹿市教育委員会
平成 26 年 3 月 31 日
編集 山鹿市教育委員会文化課
〒 861-0501 山鹿市山鹿 156-3
印刷 株式会社トライ

仕様	印刷	オフセット
	規格	A 4 版
	組版	電子組版 本文横組み 2 段 (23 字 44 行)、13 級明朝体
	製版	カラー図版 200 線 4 色 モノクロ図版 200 線 1 色
	製本	無線綴じ
	用紙	表紙 アートポスト 220 kg 見返し 色上質 特厚口 本文・図版 マットコート 90kg

この報告書は、一冊あたり 1,365 円で印刷した (人件費等の間接経費は除く)。25 山文 23 号 409,5000/300

文化財調査報告の電子書籍の末尾に挿入する奥付

この電子書籍は、『山鹿市文化財調査報告第 15 集 方保田遺跡』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

なお、平成 17 年(2005)に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町が合併し山鹿市となりました。調査記録及び出土遺物は、山鹿市教育委員会が保管しています。

書名：山鹿市文化財調査報告第 14 集 馬見塚古墳群辻古墳

発行：山鹿市教育委員会

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番 3

電話：0968-43-1651

URL：<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2025 年 7 月 9 日